



Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 リリースノート



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 820-5660
2008年6月

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。特に、限定されることなく、これら知的所有権には、ひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国における申請中の特許が含まれていません。

U.S. Government Rights – Commercial software. 米国政府機関による使用は、米国 Sun Microsystems 社の標準のライセンス契約と該当する FAR 条項とその補足条項に従うものとします。

本製品には、サードパーティが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、SPARC、N1.JSP、JDBC、NetBeans、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社またはその子会社の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

この製品と本書に記載されている情報は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト(輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストなどを含む)に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は「現状のまま」をベースに提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

目次

Sun Java System Web Server リリースノート	7
新機能	8
AIX プラットフォームのサポート	8
自動配備	8
Update 2 リリースの諸機能および拡張機能	8
PKCS11 バイパスのサポート	8
サービス管理機能 (SMF) のサポート	9
非同期アクセラレータキャッシュのサポート	9
拡張された Web コンテナ	10
改善された管理エクスペリエンス	10
Red Hat 4.0 64 ビットのサポート	11
NetBeans 6.0 IDE のサポート	11
Update 1 リリースの諸機能および拡張機能	11
Java Servlet 2.5 および JavaServer Pages (JSP) 2.1 のサポート	12
JSP 標準タグライブラリおよび JavaServer Faces 1.2 のサポート	12
Java SE 5.0 および 6 のサポート	12
アクセラレータキャッシュテクノロジー	14
FastCGI 設定の管理サポート	14
NetBeans サポート	14
管理コンソールでの正規表現設定のサポート	15
パターンマッチングの GUI および CLI サポート	15
Web Server 7.0 の諸機能および拡張機能	15
JMX ベースの管理インフラストラクチャー	16
再設計された管理サーバーインタフェース	16
コマンド行インタフェースのサポート	17
Sun N1 Service Provisioning System のサポート	17
統合された設定ファイル	17
JNDI のサポート	18

Java Database Connectivity および接続プールのサポート	18
統合された Java Web Services Developer Pack 2.0 テクノロジ	18
軽量セッションレプリケーションのサポート	19
正規表現による URL のリダイレクションおよびリライティング	19
広範なリアルタイム監視サポート	20
統合された逆プロキシ	20
強化されたセキュリティー	21
楕円曲線暗号方式 (ECC) のサポート	21
Sun Java Studio Enterprise のサポート	22
ローカリゼーションサポート	23
サポートされるプラットフォーム	23
システム仮想化のサポート	24
必要なパッチ	25
Solaris のパッチ	25
HP-UX のパッチ	28
2007 年の US DST の変更の影響	29
サポートされているブラウザ	29
インストール、移行、およびアップグレードに関する注意点	30
インストール	30
移行	31
アップグレード	31
製品マニュアル	32
解決済みの問題	32
既知の問題点	51
管理	51
コア	56
FastCGI	57
インストール	57
移行およびアップグレード	59
サンプルアプリケーション	60
検索	60
セキュリティー	60
セッションレプリケーション	61
Web コンテナ	61
ローカリゼーション	62
Java Enterprise System	63

問題の報告とフィードバックの方法	65
このマニュアルに関するコメント	65
その他の情報	66
Sun 製品資料の検索	66

Sun Java System Web Server リリースノート

このリリースノートには、Sun Java™ System Web Server 7.0 Update 3 (Web Server) リリースに関する重要な情報が含まれています。このノートでは、新機能や拡張機能、インストール時の注意点、既知の問題、およびその他の最新の問題について扱っています。Web Server Update 3 をお使いになる前に、このリリースノートをお読みください。

このリリースノートは、次の節で構成されています。

- 8 ページの「新機能」
- 8 ページの「Update 2 リリースの諸機能および拡張機能」
- 11 ページの「Update 1 リリースの諸機能および拡張機能」
- 15 ページの「Web Server 7.0 の諸機能および拡張機能」
- 23 ページの「サポートされるプラットフォーム」
- 25 ページの「必要なパッチ」
- 29 ページの「2007 年の US DST の変更の影響」
- 29 ページの「サポートされているブラウザ」
- 30 ページの「インストール、移行、およびアップグレードに関する注意点」
- 32 ページの「製品マニュアル」
- 32 ページの「解決済みの問題」
- 51 ページの「既知の問題点」
- 65 ページの「問題の報告とフィードバックの方法」
- 66 ページの「その他の情報」
- 66 ページの「Sun 製品資料の検索」

新機能

Web Server Update 3 は、Web Server 7.0 へのアップデートリリースです。Web Server 7.0 および Web Server 7.0 Update 1、Update 2 リリースの諸機能および拡張機能に加えて、Web Server 7.0 Update 3 リリースでは、次のような付加価値のある諸機能および拡張機能が製品に導入されています。新機能および拡張機能については、次の節で説明します。

AIX プラットフォームのサポート

Web Server Update 3 リリースでは、AIX 5.3 および 6.1 プラットフォームのサポートが提供されています。

自動配備

この Web Server アップデートリリースで導入された自動配備機能を使えば、1つ以上の Web アプリケーションを指定されたディレクトリに配置するだけで、それらを配備できます。自動配備する Web アプリケーションは、WAR ファイル、Web アーカイブが展開されたディレクトリ、Web アーカイブが展開されたディレクトリへのシンボリックリンクのいずれかになります。

Web Server の自動配備機能の詳細については、『[Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 Developer's Guide to Java Web Applications](#)』の「[Auto Deploy](#)」を参照してください。

Update 2 リリースの諸機能および拡張機能

Web Server Update 2 は、Web Server 7.0 へのアップデートリリースです。Web Server 7.0 および Web Server 7.0 Update 1 リリースの諸機能および拡張機能に加えて、Web Server 7.0 Update 2 リリースでは、次のような付加価値のある諸機能および拡張機能が製品に導入されています。新機能および拡張機能については、次の節で説明します。

PKCS11 バイパスのサポート

この Web Server アップデートリリースには、SSL/TLS 処理の一部で PKCS#11 層をバイパスするよう NSS に指示するオプションが導入されています。PKCS#11 層をバイパスすると、パフォーマンスが向上します。デフォルトでは、PKCS#11 層はバイパスされません。サーバーの起動時に、サーバーはサーバーキーを格納している各トークンに問い合わせ、各トークンが PKCS#11 のバイパスをサポートできることを確認します。いずれのトークンもバイパスをサポートできない場合は、バイパスは無効にな

ります。したがって、PKCS#11 のバイパスによるパフォーマンス向上の利点を最大限に活用するために、ユーザーによる操作は必要ありません。サーバーではバイパスが自動的に活用され、トークンが現在の構成で使用できない場合は自動的にバイパスが無効になります。

Web Server では、バイパスを有効または無効にするための CLI および管理コンソールのサポートが提供されています。管理コンソールまたは CLI を使用して、PKCS11 のバイパスを有効または無効にする方法の詳細については、『[Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 管理ガイド](#)』の「[PKCS#11 トークンを有効にしてバイパスする](#)」を参照してください。

サービス管理機能 (SMF) のサポート

この Web Server アップデートリリースは、Java™ プラットフォーム向けの Solaris 10 サービス管理機能 (SMF) と統合されています。SMF は、Solaris Operating System の新機能で、各 Solaris システムのサービスおよびサービス管理のための基盤となる、統一されたモデルを作成します。また、Solaris 用に長時間動作するアプリケーションサービスを定義、配信、および管理するメカニズムです。サービスはサービスマニフェスト (サービスおよびそのサービスに関連付けられたインスタンスを記述する XML ファイル) で定義されます。

Web Server における SMF のサポートの詳細については、『[Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 管理ガイド](#)』の「[Java プラットフォーム向けサービス管理機能の Web Server への統合](#)」を参照してください。

非同期アクセラレータキャッシュのサポート

この Web Server のリリースでは、アクセラレータキャッシュから非同期に処理できる要求の処理がサポートされています。その結果、サーバーのパフォーマンスが向上します。付加価値のある機能は、次のとおりです。

- 動的再構成の処理
- 非同期キャッシュをオフにするための AsyncAccelerator フラグが `magnus.conf` に導入された
- 要求が非同期アクセラレータから統計までで処理される
- 要求が非同期アクセラレータで処理されるときにアクセスログの書き込みをバッチ処理する

拡張された Web コンテナ

この Web Server アップデートリリースでは、例外スタックトレースまたは JSP コンパイラエラーをブラウザに表示する機能が導入されています。以前の Web Server のリリースでは、要求時にサーブレットコンテナで例外が発生すると、内部アプリケーションの詳細は表示せずにクライアントで「サーバーエラー」が表示されます。この機能が有効と無効のいずれの場合でも、常に例外がエラーログに記録されます。

注-デフォルトでは、例外スタックトレースまたは JSP コンパイラエラーをブラウザに表示する機能は無効になっています。set-servlet-container-prop コマンドを使用するか、または管理コンソールの「サーブレットコンテナ」タブにある「表示例外」チェックボックスを使用すると、この機能を有効化できます。この機能は、開発の目的で役立ちます。本番稼動システムでは、この機能を無効にすることをお勧めします。

改善された管理エクスペリエンス

この Web Server のリリースでは、次の主要な機能が導入されたことにより管理エクスペリエンスが改善されました。

配備済み構成のロールバックのサポート

Web Server では、配備済みの構成のロールバックがサポートされています。現在、Web Server 管理では、管理者はすべての配備済み構成で自動的にバックアップを取得できます。管理 CLI を使用すると、バックアップの一覧表示および指定したバックアップの復元が可能です。

管理サーバーパスワードの設定のサポート

この Web Server のリリースでは、管理サーバーのユーザーパスワードをリセットできます。ただし、この機能は管理サーバーのノードにおいてローカルでのみ動作します。

CA 証明書の管理のサポート

管理コンソールを使用すると、CA 証明書、証明書チェーン、および CRL のインストール、削除、フィルタが可能です。さらに、サーバーは間もなく期限切れになる証明書についてユーザーに警告します。

Sun Connection への登録

管理コンソールまたは Update Center を使用すると、Web Server を Sun Connection に登録できます。Web Server を Sun Connection に登録することには、次のような利点があります。

- パッチ情報およびバグのアップデート
- ニュースおよびイベント
- サポートおよびトレーニングの提供

管理機能の詳細については、『Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 管理ガイド』を参照してください。

Red Hat 4.0 64 ビットのサポート

このリリースでは、Web Server の 64 ビットスタンドアロンバージョンがサポートされています。Web Server 7.0 64 ビット Linux は、別々のスタンドアロンのみのディストリビューションであり、Web Server 7.0 32 ビット Linux とは共存できません。Web Server 7.0 64 ビット Linux では、64 ビット Java 開発キット 5.0 アップデート 12 以上が必要です。管理サーバーとサーバーインスタンスのどちらも、64 ビットサーバーのみがサポートされています。Linux 用の Web Server 7.0 64 ビットでは、以前のリリースからの移行はサポートされていません。

NetBeans 6.0 IDE のサポート

この Web Server のアップデートリリースでは、NetBeans 6.0 IDE への接続がサポートされているため、ユーザーはアプリケーションの開発、デバッグ、および Web サーバーへの配備を行うことができます。NetBeans 6.0 IDE を使用すると、アップデートセンターから NetBeans のプラグインをダウンロードできます。

注 - Web Server では、NetBeans 6.0 IDE のサポートに加えて、IDE の NetBeans 5.0 および 5.5.1 バージョンがサポートされています。

Update 1 リリースの諸機能および拡張機能

Web Server 7.0 Update 1 は、Web Server 7.0 メジャーリリースのアップデートリリースです。

このリリースノートで後述される Web Server 7.0 の諸機能および拡張機能に加えて、Web Server 7.0 Update 1 は Java Platform, Enterprise Edition (Java EE) 5.0 および Web 2.0 テクノロジをサポートします。これらの諸機能および拡張機能の詳細については、次の節で説明されています。

- 12 ページの「Java Servlet 2.5 および JavaServer Pages (JSP) 2.1 のサポート」
- 12 ページの「JSP 標準タグライブラリおよび JavaServer Faces 1.2 のサポート」
- 12 ページの「Java SE 5.0 および 6 のサポート」
- 14 ページの「アクセラレータキャッシュテクノロジー」
- 14 ページの「FastCGI 設定の管理サポート」
- 14 ページの「NetBeans サポート」
- 15 ページの「管理コンソールでの正規表現設定のサポート」
- 15 ページの「パターンマッチングの GUI および CLI サポート」

Java Servlet 2.5 および JavaServer Pages (JSP) 2.1 のサポート

Web Server には、Java Platform, Enterprise Edition (Java EE™) 5 に準拠する、Java Servlet 2.5 および JavaServer Pages™ (JSP™) 2.1 テクノロジ仕様の実装が含まれています。Web Server により、Java テクノロジ標準準拠の Web アプリケーションの設計と配備に必要な柔軟性と信頼性が提供されます。

Java Servlet テクノロジは、Web 開発者に、Web Server の機能を拡張したり既存のビジネスシステムにアクセスしたりするためのシンプルで一貫したメカニズムを提供します。JSP テクノロジを使用することで、簡単にすばやく動的な Web コンテンツを作成することができます。JSP テクノロジによって、サーバーとプラットフォームに依存しない Web ベースのアプリケーションを迅速に開発することが可能になります。

これらのテクノロジについては、<http://java.sun.com/javaee/5/docs/tutorial/doc/> を参照してください。

JSP 標準タグライブラリおよび JavaServer Faces 1.2 のサポート

JavaServer Pages Standard Tag Library は、多くの Web アプリケーションに共通するコア機能をカプセル化したカスタムタグを提供します。JSP 標準タグライブラリには、繰り返しや条件などの構造にかかわる一般的なタスクのサポートが含まれています。XML ドキュメントを操作するためのタグ、国際化タグ、および SQL タグも提供されています。また、既存のカスタムタグを JSP 標準タグライブラリタグに統合するためのフレームワークも提供しています。

Web Server は JavaServer Faces™ テクノロジをサポートします。JavaServer Faces は Web アプリケーションを構築するためのユーザーインターフェイスフレームワークです。

これらのテクノロジについては、<http://java.sun.com/j2ee/1.4/docs/tutorial/doc/index.html> を参照してください。

Java SE 5.0 および 6 のサポート

Web Server は、32 ビット版の Java Platform, Standard Edition (Java SE™) 5.0 と Java Platform, Standard Edition (Java SE) 6 をサポートします。64 ビット版の Web Server に対しては、64 ビット版の Java Development Kit (JDK™) ソフトウェアサポートが利用可能になっています。

Solaris、Linux、および Windows では、JDK 5.0 Update 15 が Web Server 7.0 Update 3 リリースの一部として提供されます。

次の表に、さまざまなプラットフォームでサポートされている JDK バージョンの一覧を示します。

表1 サポートされている JDK バージョン

オペレーティングシステム	サポートされている Java SE バージョン	Web Server に同梱されているかどうか	64 ビットのサポート (あり/なし)
Solaris SPARC	1.5.0_15 1.6.0_06	はい いいえ	はい
Solaris x86/AMD、AMD64	1.5.0_15 1.6.0_06	はい いいえ	はい
Linux (32 ビット)	1.5.0_15	はい	いいえ
Linux (64 ビット)	1.6.0_06	いいえ	はい
Windows	1.5.0_15 1.6.0_06	はい いいえ	いいえ
HP-UX	1.5 (1.5.0.12-21_mar_2008_11_52) 1.6 (1.6.0.00-jinteg_12_nov_2007_21_58-b00)	いいえ	いいえ
AIX	1.5.0 pap32dev-20080315 (SR7)	いいえ	いいえ

インストール時には、JDK の有効なパスを指定する必要があります。製品に同梱されていない JDK バージョンを使用するには、次の場所からソフトウェアをダウンロードします。

JDK Version 1.6.0: <http://java.sun.com/javase/downloads/index.jsp>

JDK Version 1.5.0:
http://www.hp.com/products1/unix/java/java2/jdkjre5_0/index.html

AIX プラットフォーム上で JDK 1.5.0 を使用すると、管理サーバーが起動に失敗し、「管理サーバーの証明書データベースを検出/オープンできません」というエラーメッセージが表示される可能性があります。これは、インストールされた JDK の制限されたセキュリティーポリシーと、キーサイズの制限が原因です。

SDK のセキュリティー情報の詳細については、<http://www.ibm.com/developerworks/java/jdk/security/50/> を参照してください。

この問題を解決するには、「IBM SDK ポリシーファイル」をクリックして制限されていないセキュリティーポリシーをダウンロードします。ダウンロードした ZIP ファイルを展開すると、2つの JAR ファイルが JRE ディレクトリ (jre/lib/security/) 内に配置されます。

アクセラレータキャッシュテクノロジー

Web Server には、サイズの小さいファイルの伝送速度を上げるアクセラレータキャッシュテクノロジーが新たに組み込まれています。アクセラレータキャッシュは自動的に有効になるため、設定する必要はありません。詳細については、『[Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 Performance Tuning, Sizing, and Scaling Guide](#)』の「[File Cache Statistics Information](#)」を参照してください。

FastCGI 設定の管理サポート

単一の FastCGI アプリケーションの設定は、管理コンソールでもコマンド行インタフェース (CLI) でも行えます。また、設定ファイルを使用して Web Server で FastCGI を設定することもできます。

複数の FastCGI アプリケーションを設定するには、『[Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 管理ガイド](#)』の「[複数の FastCGI アプリケーションの構成](#)」を参照してください。

NetBeans サポート

Web Server が提供するプラグインを使えば、NetBeans™ 統合開発環境 (IDE) Version 5.0、5.5、および 5.5.1 と統合して Web アプリケーションの配備やデバッグを行えるようになります。NetBeans は、標準コンポーネントを使って Java Platform Enterprise Edition (Java EE) ベースの Web アプリケーションを作成するための、完全な開発環境です。

このプラグインは、Web アプリケーションの配備のほかに、次のアクティビティもサポートします。

- サーバーインスタンスの開始や停止など、インスタンスの管理
- アプリケーションの有効化または無効化
- JDBC リソースや JDBC 接続プールなど、サーバー全体のリソースの作成

NetBeans については、<http://www.netbeans.org/kb/index.html> を参照してください。

Web Server での NetBeans の使用方法の詳細については、<http://webserver.netbeans.org> を参照してください。

管理コンソールでの正規表現設定のサポート

Web Server は、管理コンソールを使用して `obj.conf` ファイル内に正規表現を作成するための機能を提供します。ただし、管理コンソールで作成する正規表現は、URL リダイレクトの `<If>..<</If>` 条件の形式に限定されます。

管理コンソールを使用して正規表現を作成する方法の詳細については、『[Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 管理ガイド](#)』を参照してください。

パターンマッチングの GUI および CLI サポート

Web Server は、管理コンソールおよび管理 CLI を使用して URI、URI プレフィックス、URI ワイルドカードパターンのプロパティを設定するための機能を提供します。

管理コンソールを使用して URI パターンプロパティを設定する方法の詳細については、『[Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 管理ガイド](#)』を参照してください。

CLI コマンドを使用して URI パターンプロパティを設定する方法の詳細については、『[Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 CLI Reference Manual](#)』を参照してください。

Web Server 7.0 の諸機能および拡張機能

Solaris™、SPARC®、および AMD64 プラットフォーム上で、Web Server を 64 ビットアプリケーションとして実行するように設定できます。

Web Server は、包括的なコマンド行インタフェースのサポート、統合された構成、楕円曲線暗号方式 (ECC) のサポートによって強化されたセキュリティ、およびクラスタリングのサポートを提供します。また、これには堅牢な組み込み移行ツールも付属していて、Web Server 6.0 や Web Server 6.1 から Web Server 7.0 にアプリケーションと構成を移行する際に役立ちます。

Sun Java System Web Server には次の新機能が含まれています。

- 16 ページの「JMX ベースの管理インフラストラクチャー」
- 16 ページの「再設計された管理サーバーインタフェース」
- 17 ページの「コマンド行インタフェースのサポート」
- 17 ページの「Sun N1 Service Provisioning System のサポート」
- 17 ページの「統合された設定ファイル」
- 18 ページの「JNDI のサポート」
- 18 ページの「Java Database Connectivity および接続プールのサポート」
- 18 ページの「統合された Java Web Services Developer Pack 2.0 テクノロジー」
- 19 ページの「軽量セッションレプリケーションのサポート」

- 19 ページの「正規表現による URL のリダイレクションおよびリライティング」
- 20 ページの「広範なリアルタイム監視サポート」
- 20 ページの「統合された逆プロキシ」
- 21 ページの「強化されたセキュリティー」
- 21 ページの「楕円曲線暗号方式 (ECC) のサポート」
- 22 ページの「Sun Java Studio Enterprise のサポート」
- 23 ページの「ローカリゼーションサポート」

JMX ベースの管理インフラストラクチャー

Web Server の管理インフラストラクチャーは、最新の分散 JMX™ (Java Management Extensions) テクノロジーに基づいています。JMX テクノロジーは、デバイス、アプリケーション、およびサービス駆動型ネットワークの管理と監視のための分散ソリューション、Web ベースソリューション、モジュール化ソリューション、および動的ソリューションを構築するツールを提供します。JMX は、クラスタ化された複数の Web Server 配備をまたがってインスタンス、設定、および Web アプリケーションを管理および監視する際に役立ちます。

再設計された管理サーバーインタフェース

管理サーバーとは、管理アプリケーションの配備先となる、特別に設定された Web Server インスタンスのことです。サーバーファームの各ノード上では、管理インスタンスが1つずつ実行されます。これらのノードのうち、1つのノードが管理サーバーとして設定され、残りは管理ノードとして設定されます。

Web ベースの管理サーバーは、共通のタスクによりアクセスしやすく、かつ複雑なタスクをより実行しやすく再設計されています。

管理サーバーには次の新機能が含まれています。

- もっとも一般的なタスクを実行するための、Web ベースのウィザード
- サーバー設定タスクやサーバー管理タスク向けの包括的なコマンド行インタフェース (CLI) のサポート
- 集約された設定ストア
- Web Server の設定情報を複数のマシン上に配備する機能のサポート。この機能は、サーバーファームやサーバークラスタ内の Web Server をサポートするように拡張されています。
- 組み込み型のサーバークラスタ管理/監視機能

管理インタフェースを使って管理タスクを実行する方法の詳細については、『[Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 管理ガイド](#)』を参照してください。

コマンド行インタフェースのサポート

コマンド行インタフェースを使えば、サーバーを容易に設定および管理できます。

管理 CLI の主要機能は次のとおりです。

- スクリプティング用の組み込み Java コマンド言語 (jacl) シェル
- 拡張可能な CLI。これにより、他社製のプラグインを使ってほかのコマンドを追加できるようになります
- ローカルおよびリモートでの管理、設定、および 1 つ以上のサーバーインスタンスの管理に対するサポート
- 1 つ以上の文字を入力してから Tab キーを押すと、コマンドが自動的に補完されます
- シングルモード、シェルモード、およびファイルモードを含む、使いやすい CLI ベースの操作モード

コマンドの詳細については、『[Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 CLI Reference Manual](#)』を参照してください。

Sun N1 Service Provisioning System のサポート

Web Server は Sun N1™ Service Provisioning Server 5.2 と統合されています。Sun N1 Service Provisioning System はアプリケーションプロビジョニングツールであり、これを使えばカスタムスクリプトを使う必要がなくなります。Web Server は Sun N1 Service Provisioning System と統合されているため、管理者は、データセンター環境やサーバーファームで複数の Web Server をインストールするためのカスタムスクリプトを記述する必要がありません。

統合された設定ファイル

Web Server の設定ファイルは、管理を単純化するために再配置および統合化されています。

以前のバージョンの Web Server では、`userdb` 内の設定ファイルがすべてのインスタンスによって共有されていましたが、それらのファイル内に格納された情報がインスタンス固有のものであることがしばしばでした。Web Server 7.0 では、`userdb` ディレクトリ内の設定ファイルが削除されています。それらの機能は、`config` ディレクトリの `server.xml` ファイル内に組み込まれています。`alias` および `httpacl` ディレクトリの構成ファイルは、`config` ディレクトリに移動されています。これらの変更により、インスタンス固有の `config` ディレクトリ内のインスタンス固有の構成情報は強化されています。

構成ファイルについては、『[Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 Administrator's Configuration File Reference](#)』を参照してください。

JNDI のサポート

Java Naming and Directory Interface™ (J.N.D.I.) API は、さまざまな企業のネーミング/ディレクトリサービスへのシームレスな接続を提供します。

Java Database Connectivity および接続プールのサポート

Web Server は、すぐに使えてシームレスな JDBC™ (Java DataBase Connectivity)、テクノロジーを提供し、業界標準の JDBC ドライバからカスタマイズされた JDBC ドライバまでを幅広くサポートしています。

Web Server は、JDBC 接続プール、つまり特定のデータベースに対する再利用可能な一連の接続をサポートします。新しい接続をそれぞれ作成するには時間がかかるので、パフォーマンス向上のために、サーバーは利用可能な接続のプールを保持しています。アプリケーションが接続を要求すると、プールから 1 つの接続が取得されます。アプリケーションが接続を閉じると、接続はプールに戻されます。

JDBC 接続プールの作成方法については、『[Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 管理ガイド](#)』を参照してください。

統合された Java Web Services Developer Pack 2.0 テクノロジー

Web Server には、Java Web Services Developer Pack (Java WSDP) 2.0 テクノロジーと XML テクノロジーが含まれています。Java WSDP を使って開発された Web サービスは、`wadm` コマンドを使用することで Web アプリケーションとして Web Server 上に配備できます。

Web Server 7.0 は、XML 暗号、XML デジタル署名などのセキュリティー機能をサポートするほか、メッセージセキュリティープロバイダもサポートします。

Java WSDP 2.0 の詳細については、次のリソースを参照してください。

<http://java.sun.com/webservices/jwsdp/index.jsp>

Java WSDP 2.0 のサンプルは次の場所にあります。これらのサンプルは Web Server 7.0 に配備可能です。

http://java.sun.com/webservices/downloads/2.0_preview_webservicespack.html

軽量セッションレプリケーションのサポート

Web Server は、クラスタベースのセッションレプリケーションおよびフェイルオーバーをサポートします。セッションレプリケーションとフェイルオーバーを使えば、あるサーバーインスタンスから同じサーバークラスタ内の別のインスタンスへ HTTP セッションをレプリケートすることで、Web アプリケーションの可用性を高めることができます。HTTP セッションはそれぞれリモートインスタンス上にバックアップコピーが作成されるため、クラスタ内のあるインスタンスが利用不可能になるようなサーバー障害が発生しても、セッションを問題なく継続できます。

軽量セッションレプリケーションサポートの詳細については、『[Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 管理ガイド](#)』を参照してください。

正規表現による URL のリダイレクションおよびリライト

Web Server 7.0 では、`obj.conf` 設定ファイルにおける正規表現と条件処理のサポートが強化されました。

主な拡張内容は次のとおりです。

- 正規表現のサポート
- 新しい URI で要求を再開するための `restart SAF` (Server Application Function)
- 式、変数、正規表現後方参照など、動的 SAF パラメータのサポート
- 条件処理用の `<If>`、`<ElseIf>`、および `<Else>` タグ
- `and`、`or`、および `not` 演算子を使用した複合条件のサポート
- 要求および応答の本体をリライトするための、`sed-request` および `sed-response` フィルタ

これらの新機能を使えば、Apache HTTP サーバーからの `mod_rewrite` を使って定義できる規則と同様に、柔軟な URL リライトとリダイレクションの規則を定義できます。`mod_rewrite` の場合とは異なり、Web Server 7.0 の正規表現と条件処理は要求処理の任意の段階で使用でき、他社製プラグインと合わせて使用することもできます。

正規表現や URL リライト機能の詳細については、『[Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 Administrator's Configuration File Reference](#)』を参照してください。

広範なリアルタイム監視サポート

以前のバージョンの Web Server の監視機能に加え、Web Server には次の拡張機能が追加されています。

- サブレット、JSP、および JSP 標準タグライブラリのコンテナ特性を監視する
- 管理サーバー内からプロセスおよび仮想サーバーの統計情報を監視する
- Solaris 10 プラットフォームのシステム管理エージェントと統合する。Java Enterprise System Monitoring Framework (Java ES Monitoring Framework) と統合されています。このため、Web Server の監視情報が Java ES Monitoring Framework 内で利用可能になります。
- Java Monitoring and Management Console (jconsole) スクリプト、Java ES Monitoring Framework、または JMX (Java Management Extensions) に準拠した任意のクライアントアプリケーションを使用して、監視データに管理 Beans (MBeans) としてアクセスする。

Web Server の監視機能の詳細については、『Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 管理ガイド』を参照してください。

統合された逆プロキシ

Web Server には逆プロキシが統合されています。逆プロキシは内部モジュールとして実行できます。

逆プロキシは、クライアントに対しては Web サーバー (元のサーバー) として表示されますが、実際は受信した要求を 1 つ以上の元のサーバーに転送します。逆プロキシは自身を元のサーバーとして提示するため、逆プロキシを使用するようにクライアントを構成する必要はありません。指定された逆プロキシが、同じ構成の複数の元のサーバーに要求を転送するように設定することで、逆プロキシをアプリケーションレベルのソフトウェアのロードバランサとして動作させることができます。通常の配備では、ブラウザと元のサーバーの間に 1 つ以上の逆プロキシが配備されます。

統合された逆プロキシでは、公共のインターネットと元の Web Server との間に追加の保護層が提供されます。Web Server は、Tomcat や Sun Java System Application Server 9 などのバックエンドアプリケーションサーバーの逆プロキシサーバーとして構成できます。

Web Server は、逆プロキシを設定するための GUI および CLI サポートを提供します。

逆プロキシの設定方法については、『Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 管理ガイド』を参照してください。

強化されたセキュリティー

Web Server は、データの暗号化と検証、要求の認証、およびサーバープロセスの保護を可能にするさまざまなテクノロジーをサポートしています。セキュリティー機能の主な強化点は、次のとおりです。

- Solaris 10 プラットフォームの暗号化フレームワークのサポート。たとえば、libpkcs11.so には、UltraSPARC® T1 プロセッサハードウェアアクセラレーションのサポートが含まれています。
- DoS (Denial of Service) 攻撃に対する保護の強化
- ネイティブ sed(1) ベースの入力フィルタリングを使った、クロスサイトスクリプト保護
- Web サービスのセキュリティー:
 - IETF XML デジタル署名
 - W3C XML 暗号
- 統合された P3P (Platform for Privacy Preferences) サポート
- Web ベースの分散オーサリングおよびバージョン管理 (Web-based Distributed Authoring and Versioning、WebDAV) アクセス制御のサポート
- LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) auth-db が拡張され、検索式とマッチング属性が設定可能になりました
- LDAP auth-db は Microsoft Active Directory との相互運用性をサポートします
- Tomcat またはその他の Java キーストアファイルベースリポジトリからの証明書の移行のサポート
- 動的に適用された証明書失効リスト (CRL) のサポート
- 統合された IPv6 のサポート

楕円曲線暗号方式 (ECC) のサポート

Sun Java System Web Server はこれまで常に、RSA キーをサポートしてきました。Web Server 7.0 では、RSA キーを引き続きサポートすることに加え、楕円曲線暗号方式 (ECC) を新たにサポートします。

ECC は、モバイルまたはワイヤレス環境向けの次世代の公開鍵暗号方式です。ECC は、非対称暗号を実行するために、一連のキーの生成、暗号化、および復号化のアルゴリズムに基づいています。

ECC の重要な機能は次のとおりです。

- ECC では、RSA などの従来の暗号システムと比べて小規模なキーサイズで同等のセキュリティを提供できるので、コンピュータ処理が高速化し、消費電力が削減され、メモリーおよび帯域幅を節約することができます。
- ECC は楕円曲線に動作します。ユーザーは曲線とキーの長さを選択する必要があります。曲線は、NIST、ANSI、SECG などのさまざまな組織によって標準化され、命名されています。これらの標準にはキーの長さも含まれているため、定義済みの曲線名の中から 1 つを選択するだけですみます。Web Server 7.0 は、現在規定されているすべての曲線をサポートします。

Web Server での ECC の使用方法の詳細については、『[Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 管理ガイド](#)』を参照してください。

Sun Java Studio Enterprise のサポート

Web Server 7.0 は Sun Java Studio Enterprise 8.1 をサポートします。Sun Java Studio ソフトウェアは、Java テクノロジー開発者向けの、Sun の強力で拡張可能な IDE です。Sun Java Studio 8.1 は NetBeans ソフトウェアをベースにしており、Sun Java プラットフォームと統合されています。

Web Server 用のプラグインは、次の方法で取得できます。

- Sun Java System Web Server メディアキットの付属 CD
- Sun Java Studio の付属 *AutoUpdate* 機能の使用
- Sun Java System Web Server のダウンロードセンター

注 - Web Server 用の Sun Java Studio 8.1 プラグインは、ローカルの Web サーバーでのみ動作します。つまり、IDE と Web サーバーは、同一マシン上にインストールする必要があります。

Sun Java Studio 8.1 の Web アプリケーション機能の使用については、次のチュートリアルを参照してください。

<http://developers.sun.com/prodtech/javatools/jsenterprise/learning/tutorials/index.jsp>

Sun Java Studio 8 の詳細については、次を参照してください。

<http://www.sun.com/software/sundev/jde/>

ローカリゼーションサポート

Web Server は次の言語で使用できます。

- フランス語
- ドイツ語
- スペイン語
- 日本語
- 簡体字中国語
- 繁体字中国語
- 韓国語

サポートされるプラットフォーム

Web Server は、Solaris、Linux、HP-UX、および Windows のオペレーティングシステム上にインストールできます。次の表は、プラットフォームのサポートについてまとめたものです。インストール要件の詳細については、このリリースノートの [25 ページの「必要なパッチ」](#) を参照してください。

注-

1. Windows、Linux、および HP-UX 上では、Web Server は 32 ビットアプリケーションとして実行されます。
2. Intel の Itanium アーキテクチャーはサポートされません。
3. 指定されたプラットフォームに Web Server をインストールするための必要最小限のメモリーは、Web Server をスタンドアロン製品としてインストールする場合に適用されます。Web Server を Java ES の一部としてインストールする場合は、必要最小限のメモリーが異なる可能性があります。正確なメモリー要件については、『Sun Java Enterprise System 5 リリースノート (UNIX 版)』を参照してください。

表 2 Web Server がサポートするプラットフォーム

ベンダー	アーキテクチャー	オペレーティングシステム	必要最小限のメモリー	最小の推奨ディスク容量
Sun	UltraSPARC®	Solaris 8、9、10	512M バイト	550M バイト
Sun	AMD/x86	Solaris 9、10 (x86) Solaris 10 (AMD64)	512M バイト	550M バイト

表2 Web Server がサポートするプラットフォーム (続き)

ベンダー	アーキテクチャー	オペレーティングシステム	必要最小限のメモリー	最小の推奨ディスク容量
Microsoft	AMD/x86	Windows 2000 Advanced Server, Service Pack 4 Windows XP Professional Edition SP2 以上、 Windows Server 2003 Enterprise Edition Windows 2003 Server R2 Enterprise Edition	512M バイト	550M バイト
Red Hat	AMD/x86	Red Hat Enterprise Linux 3.0 (Update 4.0 以降)、4.0、5.0 (またはそれ以降のアップデート) Red Hat Enterprise Linux 4、5 (64 ビット)	768M バイト	550M バイト
Novell	AMD/x86	SUSE Linux Enterprise Server 9 (またはそれ以降のアップデート) SuSE Enterprise Linux 9、10 SP2 (32 ビット、64 ビット)	512M バイト	550M バイト
Hewlett-Packard	PA-RISC 2.0	HP-UX 11iv1 (B.11.11)	512M バイト	550M バイト
IBM		AIX 5.3 および 6.1	512M バイト	550M バイト

システム仮想化のサポート

システム仮想化とは、複数のオペレーティングシステム (OS) インスタンスが共有ハードウェア上で独立して動作することを可能にするテクノロジーのことです。機能

的には、仮想化環境内でホストされている OS に配備されたソフトウェアは通常、背後のプラットフォームが仮想化されていることに気づきません。Sun では、適切に設定された適切なサイズの仮想化環境上で、仮想化されていないシステム上の場合と同様に Sun Java System 製品が機能することを確認できるよう、選択したシステム仮想化と OS の組み合わせについて Sun Java System 製品のテストを実行しています。仮想化環境での Sun Java System 製品の Sun のサポートについては、<http://docs.sun.com/doc/820-4651> を参照してください。

必要なパッチ

適用可能な最新のパッチでオペレーティングシステムを更新します。次の各節では必須パッチを一覧表示します。

Solaris のパッチ

Solaris 8、9、または 10 オペレーティングシステムの x86 ユーザーまたは SPARC ユーザーは、最新のパッチクラスタをインストールするようにしてください。このパッチクラスタは、<http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=patchpage> Web サイトの「推奨 & セキュリティパッチ」で利用可能になっています。

注 - 32 ビット Solaris (SPARC) プラットフォームの場合、次の節で列挙されているパッチに加えて、SUNWLibC パッケージと SUNWLibCx パッケージをインストールしてください。

Web Server 7.0 インストーラは、必須パッチがマシンにインストールされているか判定します。それらのパッチがなかった場合、インストールは失敗します。サポートされたプラットフォーム上に Web Server 7.0 を正常にインストールして、正しく機能させるには、次の各パッチが必要です。

注 - <http://sunsolve.sun.com> で入手可能なパッチが「古くなっている」場合、最新版には最新のバグ修正と製品の機能拡張が含まれているので、それらのパッチの最新版をダウンロードします。

注- マシンにインストールされている Solaris オペレーティングシステムのバージョンを確認するには、`/etc/release` ファイルを参照します。

`/etc/release` ファイルには、Solaris オペレーティングシステムのバージョン情報が次の形式で含まれています。

```
Solaris 10 6/06 s10x_u2wos_08 X86
Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc. All Rights Reserved.
Use is subject to license terms.
Assembled 02 May 2006
```

Solaris 8 プラットフォーム (SPARC および x86)

Solaris 8 プラットフォーム (SPARC)

- Solaris 8 2/02
- 109326-19
- 108434-18 — C++ 用の共有ライブラリパッチ (32 ビット版の Web Server 向け)
- 108435-18 — C++ 用の共有ライブラリパッチ (64 ビット版の Web Server 向け)

Solaris 8 プラットフォーム (x86)

- 109327-19

Solaris 9 プラットフォーム (SPARC および x86)

Solaris 9 プラットフォーム (SPARC)

- Solaris 9 9/05
- 112970-12
- 111711-12 — C++ 用の共有ライブラリパッチ (32 ビット版の Web Server 向け)
- 111712-12 — C++ 用の共有ライブラリパッチ (64 ビット版の Web Server 向け)

Solaris 9 プラットフォーム (x86)

- Solaris 9 9/05
- 114354-11
- 111712-17 — カーネルパッチ
- 111713-09 — C++ 用の共有ライブラリパッチ

Solaris 10 プラットフォーム (SPARC および x86)

Solaris 10 プラットフォーム (SPARC)

- 120032-04 — SPARC S10 パッチ (libresolv の修正を含む)

Solaris 10 プラットフォーム (x86)

- 119964-03 — C++ 用の共有ライブラリパッチ
- 120033-04 — S10 パッチ
- SUNWlxml (64 ビット版の Web Server 向け)

AIX 5.3

- 5300-08-01-0819 以上

AIX 6.1

- 6100-00-04-0815

注-パッチの適用後にシステムを再起動する必要があります。

互換性のないパッチ

互換性のない一部のパッチは、Web Server の起動に影響を与え、サーバーが要求に回答しない結果を招く恐れがあります。次の表に、そのようなパッチの一覧を示します。互換性のないパッチがマシンにインストールされている場合は、そのパッチを互換性のある推奨パッチに更新します。

表3 互換性のないパッチのリスト

オペレーティングシステム	互換性のないパッチ	互換性のある推奨パッチ
Solaris 8 SPARC	109147-37 (リンカーパッチ) 109147-38 (リンカーパッチ) 109147-39 (リンカーパッチ)	109147-40 (リンカーパッチ)
Solaris 9 SPARC	112963-22 (リンカーパッチ) 112963-23 (リンカーパッチ) 112963-24 (リンカーパッチ)	112963-25 (リンカーパッチ)
Solaris 10 SPARC	117461-04 (ld のパッチ) 117461-05 (ld のパッチ) 117461-06 (ld のパッチ) 117461-07 (ld のパッチ)	117461-08 (ld のパッチ)
Solaris 9 x86	113986-18 (リンカーパッチ) 113986-19 (リンカーパッチ) 113986-20 (リンカーパッチ)	113986-21 (リンカーパッチ)

表3 互換性のないパッチのリスト (続き)

オペレーティングシステム	互換性のないパッチ	互換性のある推奨パッチ
Solaris 10 x86	118345-08 (ld と libc.so.1 のパッチ) 118345-09 (ld と libc.so.1 のパッチ) 118345-10 (ld と libc.so.1 のパッチ) 118345-11 (ld と libc.so.1 のパッチ)	121208-02 (ld と libc.so.1 のパッチ)

HP-UX のパッチ

HP-UX プラットフォーム上に Web Server をインストールするための要件は、次のとおりです。

- HPUX11i-OE B.11.11.0312 (HP-UX 11i オペレーティング環境)
- HPUXBase64 B.11.11 (HP-UX 64 ビット Base OS)
- HPUXBaseAux B.11.11.0312 (HP-UX Base OS Auxiliary)
- FEATURE11-11 B.11.11.0209.5 (HP-UX 11i 用の機能有効化パッチ、2002 年 9 月)
- HWEEnable11i B.11.11.0412.5 (HP-UX 11i v1 用のハードウェア有効化パッチ)
- BUNDLE B.11.11 (パッチバンドル)
- BUNDLE11i B.11.11.0306.1 (HP-UX 11i に付属する必要なパッチ、2003 年 6 月)
- GOLDAPPS11i B.11.11.0506.4 (HP-UX 11i v1 用 Gold Application パッチ、2005 年 6 月)
- GOLDBASE11i B.11.11.0506.4 (HP-UX 11i v1 用 Gold Base パッチ、2005 年 6 月)
- JAVA00B 2.03.01 (HP-UX 用 Java2 Out-of-box)
- PHCO_29109 1.0 (Pthread の拡張および修正)
- PHCO_30544 1.0 (Pthread.h の修正および新しい拡張)
- PHCO_29495 1.0 (libc 累積パッチ)
- PHCO_31923 1.0 (libc 累積ヘッダーファイルパッチ)
- PHKL_25842 スレッド異常終了(またはそれにとって代わったパッチ)
- PHCO_35743 s700_800 11.11 (libc 累積パッチ)

2007年のUS DSTの変更の影響

米国では、夏時間 (Daylight Savings Time、DST) が3月の第2日曜日に始まり、11月の第1日曜日に終わります。これは、オペレーティングシステムおよびJDK/JREの日付と時刻の規則に影響を及ぼします。

米国のタイムゾーンにおける正しい時刻がログファイル内に格納され、かつ管理サーバーやJava Webアプリケーションがこの変更の影響を受けないようにするには、次のことを行います。

適切なオペレーティングシステムパッチをダウンロードして使用します。Solaris パッチは <http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-26-102775-1> からダウンロードできます。その他のプラットフォームの場合、オペレーティングシステムベンダーのWebサイトから類似のDST互換パッチをダウンロードします。管理サーバーとJava Webアプリケーションがこの変更の影響を受けることがないように、JREをアップグレードします。夏時間の変更に対する修正が含まれている適切なJREをダウンロードして使用します。サポートされている各プラットフォームのJREバージョンは、次のとおりです。

- Solaris: 1.5.0_09 以降
- Linux: 1.5.0_09 以降
- HP-UX: 1.5.0.03 以降
- Windows: 1.5.0_09 以降

サポートされているブラウザ

Web Server の管理コンソールでサポートされるブラウザは、次のとおりです。

UNIX* および Windows プラットフォーム:

- Mozilla 1.7 以上
- Firefox 2.0 以上

Windows プラットフォーム:

- Microsoft Internet Explorer 6.0 および 7.0

インストール、移行、およびアップグレードに関する注意点

この節では、Sun Java System Web Server のインストール、移行、およびアップグレードに関する注意事項を示します。これらのトピックの詳細については、『Sun Java System Web Server *Installation and Migration Guide*』を参照してください。このリリースの Web Server における既知の問題については、このリリースノートの [51 ページ](#) の「[既知の問題点](#)」を参照してください。

インストール

以前のバージョンの Web Server が含まれているディレクトリに Web Server をインストールすることはできません。ただし、Web Server を新しいディレクトリにインストールしたあとで既存のインストールを移行することはできます。

Web Server は、Java Enterprise System の一部またはスタンドアロンバージョンとしてインストールできます。

スタンドアロンインストール

スタンドアロンインストールでは、NSS や NSPR などの必要な共有コンポーネントはすべて、Web Server インストールファイルとともにパッケージ化されます。

Java ES インストール

Web Server を Java ES スイートの一部としてインストールする場合は、Java ES インストーラによって、NSS や NSPR などのすべての共有コンポーネントは別々のパッケージとして、Web Server 固有のバイナリは別々のオペレーティングシステム依存のパッケージとしてインストールされます。したがって、すべての共有コンポーネントパッチおよび Web Server パッチをダウンロードして、インストールする必要があります。

[Sun Solve \(http://sunsolve.sun.com/show.do?target=patches/patch-access\)](http://sunsolve.sun.com/show.do?target=patches/patch-access) を参照してください。それぞれのオペレーティングシステム用の最新の Java ES コンポーネントパッチをダウンロードしてインストールします。

注 - 最新の NSS/NSPR パッチをシステムにインストールしないと、Web Server 7.0 Update 3 が正常に起動しません。したがって、Web Server 7.0 Update 3 をインストールする前に、Update 3 パッチにバンドルされた Web Server 7.0 Update 3 パッチ README で、システムで使用できる適切な NSS パッチを確認してください。

移行

Web Server 6.0 および 6.1 の設定は移行できます。6.0 未満の Web Server バージョンからの直接移行はサポートされていません。Web Server 4.0 以降などの以前のバージョンは、まず Web Server 6.1 に移行し、それから Web Server 7.0 に移行する必要があります。Web Server 4.0 以降から Web Server 6.1 への移行については、最新の『[Sun Java System Web Server 6.1 Installation and Migration Guide](#)』および『[Sun Java System Web Server 6.1 リリースノート](#)』を参照してください。

Web Server 4.1 から Web Server 7.0 への移行や、Web Server 6.0 のすべてのバージョンから Web Server 7.0 への移行の詳細については、『[Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 Installation and Migration Guide](#)』を参照してください。

アップグレード

Sun Java System Web Server 7.0 のインストール環境がすでに存在している場合に Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 をインストールすると、インストーラは自動的にアップグレードを実行します。

Sun Java System Web Server 7.0 がすでにインストールされている場合は、Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 インストーラで Web Server 7.0 のインストール環境の場所を指定してからアップグレードしてください。

Sun Java System Web Server 7.0 が Java ES 5 の一部としてインストールされている場合は、Web Server 7.0 Update 3 にアップグレードするために、<http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=patchpage> Web サイトにある次のパッチをインストールすることをお勧めします。

- 125437 (Solaris SPARC/SPARCV9)
- 125438 (Solaris x86/x64)
- 125439 (Linux)
- 125440 (HP-UX)
- 125441 (Windows)

Web Server のローカライズされたバージョンを使用している場合は、Web Server 7.0 から Web Server 7.0 Update 3 に正常にアップグレードするために、次のパッチをインストールしてください。

- 126331 (Solaris SPARC (8/9/10)) (Solaris SPARC ローカリゼーションパッチ ID)
- 126332 (Solaris x86 (8/9/10)) (Solaris x86 ローカリゼーションパッチ ID)
- 126333 (Linux ローカリゼーションパッチ ID)

Web Server 7.0 から Web Server 7.0 Update 3 にアップグレードする方法の詳細については、『[Installation and Migration Guide](#)』を参照してください。

互換性の問題

1. Web Server 7.0 は JavaServer™ Faces 1.2 テクノロジをサポートします。JavaServer Faces 1.1 アプリケーションのほとんどは、何の変更を加えなくても Web Server 7.0 と連動するはずですが、アプリケーションを JavaServer Faces 1.2 アプリケーションに移行するときに何らかの互換性の問題が発生する可能性があります。その場合は、アプリケーションに変更を加える必要があります。この変更については、次の JavaServer Faces リリースノートで説明されています。https://javaserverfaces.dev.java.net/rlnotes/1.2_04/issues.html
2. Java ES 5 に付属する Sun Java System Portal Server 7.1 は、Sun Java System Web Server 7.0 Update 1 との互換性がありません。Sun Java System Portal Server 7.1 が Web Server 7.0 とともに配備されている場合、Sun Java System Web Server 7.0 だけでなく両方のサーバーをアップグレードする必要があります。必要な Sun Java System Portal Server 7.1 のアップグレードは、Java Enterprise System 5 Update 1、または <http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=patches/patch-access> Web サイトで入手可能な次のパッチで行えます。
 - 124301 (SPARC)
 - 124302 (x86)
 - 124303 (Linux)

Web Server のローカライズされたバージョンを使用している場合は、Portal Server の次のローカリゼーションパッチもインストールしてください。

- 125301 (Solaris SPARC および Solaris x86 ローカリゼーション)
- 125302 (Linux ローカリゼーション)

製品マニュアル

Sun Java System Web Server 7.0 Update 3 のマニュアル全文は <http://docs.sun.com/coll/1653.3> から入手できます。

解決済みの問題

この節では、Web Server 7.0 Update 3 で解決済みの問題を一覧表示します。

問題 ID	説明
6387762	wadm からシェル変数またはシステム変数にアクセスできない。

4793938	<p>ディレクトリインデックスの代わりに、ユーザーとパスワードの入力ダイアログが表示される。</p> <p>デフォルトでは、ユーザーが認証されなにかぎり、Web Server 7.0はディレクトリインデックスを送信しません。あるディレクトリにアクセスしようとすると、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。これは、Web Server 7.0のデフォルトのアクセス制御リスト(ACL)が、認証済みユーザーだけにリストアクセス権を許可するためです。</p>
6426116	<p>管理コンソールの「バージョン」ボタンをクリックすると、「ファイルが見つかりません」という警告が管理エラーログに書き込まれる。</p>
6446206	<p>グループ内のある単一ユーザーが削除されたときに、不正なメッセージ「グループは正常に保存されました」が表示される。</p>
6431984	<p>Web Server の PID ファイルと UNIX ドメインソケットは、/tmp ではなく /var/run に格納されるべきである。</p>
6475536	<p>管理サーバーのパスワードをリセットするための明確な手段が存在しない。</p>
6489727	<p>[JESMF CONFORM] CP は停止時には、MfManagedElementServer_stop() を呼び出すべきである。</p>
6493971	<p>サーバーインスタンスの再起動が応答しない場合に管理サーバーがタイムアウトしない。</p> <p>restart-instance コマンドの実行時に、UNIX システム上の管理サーバーは、サーバーインスタンスが再起動されるまで待ちます。インスタンスが正常に再起動されない場合、管理サーバーは要求に応答しません。</p>
6515745	<p>Web Server で SNMP マスターエージェントプロセスが起動に失敗する</p>
6545779	<p>Windows で、system32 ディレクトリに古いバージョンの libnspr4.dll があると wdeploy コマンドが失敗する。</p>

6606243	<p>Web Server インストーラが、管理自己署名付き証明書を IE 証明書タブにインポートする必要がある。</p> <p>ブラウザを使用して管理コンソールにアクセスすると、信頼される認証局で証明書が発行されないことを示すポップアップ (IE6 および Mozilla/Firefox の場合) または警告ページ (IE7 の場合) が表示される場合があります。この原因は、管理サーバーが自己署名付き証明書を使用していることにあります。「管理 GUI ログイン」ページに移動するには、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Mozilla/Firefox の場合、ポップアップウィンドウの「OK」ボタンをクリックします。 ■ Internet Explorer 6 の場合、ポップアップウィンドウの「はい」ボタンをクリックします。 ■ Internet Explorer 7 の場合、ページの「このサイトの閲覧を続行する」リンクをクリックします。 <p>前述の手順では、そのブラウザセッション用の証明書が一時的に許可されます。証明書を永続的に許可するには、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Firefox/Mozilla の場合: ポップアップウィンドウの「今後この証明書を受け入れる」ラジオボタンを選択して、「OK」をクリックします。 ■ Internet Explorer 6.0 の場合: <ol style="list-style-type: none"> 1. ポップアップウィンドウの「証明書の表示」ボタンをクリックします。別のポップアップウィンドウが表示されます。 2. 「証明のパス」タブを選択して、<code>admin-ca-cert</code> を選択します。 3. 「証明書の表示」ボタン、「証明書のインストール...」ボタンの順にクリックします。 証明書インポートウィザードが起動されます。これを使用すると、信頼できるルート証明書データベースに管理 CA 証明書をインポートできます。 ■ Internet Explorer 7 の場合: <ol style="list-style-type: none"> 1. 警告ページの「このサイトの閲覧を続行する」リンクをクリックします。ログインページが表示されます。 2. アドレスバーの横にある「証明書のエラー」リンクをクリックします。警告ウィンドウが表示されます。「証明書の表示」リンクをクリックします。 3. 「Internet Explorer 6 の場合」の項で説明した手順 1 から 3 に従って、信頼できるルート証明書データベースに管理 CA 証明書をインポートします。
6606132	<p>「Sun Metaslot」ピンが設定されていない場合、自己署名付き証明書の作成に失敗する</p>

6709477	<p>IE6 上で GUI 登録リマインダが正しく表示されない</p> <p>IE6 の select 要素は、階層構造の動作に必要な z インデックスをサポートしません。したがって、ドロップダウン (config および vs) にオーバーラップする登録リマインダが1つの階層として存在していても、そのドロップダウンが可視状態のままになります。</p>
6639402	<p>最大ファイル記述子数が 1024 の場合、サーバーで設定された接続キューのサイズが小さすぎる (128)</p> <p>Web Server では、さまざまなコンポーネント用にファイル記述子が予約されています。接続プールキューのサイズ、ファイルキャッシュの最大オープンファイル数、および最大キープアライブ接続数が設定されていない場合、その他のコンポーネント用にファイル記述子を予約したあとに、Web Server によって使用可能な記述子が3つの値の間で分割されます。最大ファイル記述子数のデフォルト値が小さいシステム (Solaris 8 や RHEL など) では、接続プールのサイズが小さい値に設定される場合があります。たとえば、RHEL の場合、最大ファイル記述子数のデフォルト値は 1024 です。接続キューのサイズが割り当てられていない場合、Web Server は 128 個の接続を接続キューに割り当てます。稼動が多いシステムでは、この値が小さすぎる場合があります。接続のタイムアウトが開始した場合、ユーザーは最大ファイル記述子数をより高い値に設定する必要があります。</p>
6644322	<p>Fastcgistub のメモリーリークにより、Fastcgi サブシステムがハングアップする</p>
6474037	<p>Ubuntu に Web Server をインストールする際の例外。</p> <p>Linux Ubuntu の場合、/bin/domainname が含まれるパッケージはデフォルトで使用できません。Web Server を正常にインストールするには、これらのパッケージをインストールする必要があります。</p> <p>パッケージをインストールするには、次のコマンドを入力します。</p> <pre>sudo apt-get install nis</pre>
6414481	<p>compat-libstdc++ をインストールしないと Web Server をインストールできない。</p>
6641672	<p>compat-libstdc++-33--3* (64 ビット) バージョンがあると、REDHAT ES4.0 Linux 64 ビットのインストールに失敗する</p>
6472668	<p>Windows の場合、Web Server のインストールで -Xrs JVM オプションがデフォルトで使用される</p>
6559918	<p>CLI と管理サーバーにバージョンの互換性がない場合、エラーメッセージが不明瞭である。</p> <p>Web Server 7.0 インストールを Web Server 7.0 Update 2 にアップグレードする際には、設定 CLI 全体、管理サーバー、およびすべての管理ノードも必ず Web Server 7.0 Update 2 にアップグレードしてください。これは、Web Server 7.0 管理インタフェースと Web Server 7.0 Update 2 管理インタフェースとの連携動作が正しく行われないからです。</p>

6595795	<p>管理コンソールで、移行したインスタンスに必要な機能が obj.conf ファイルに追加されない。</p> <p>JVM が無効な Web Server 6.0 インスタンスを Web Server 7.0 に移行し、移行したインスタンスを管理コンソールを使用して JVM オプション付きで有効化した場合、そのプロセスでは次の必要な行が obj.conf ファイルに追加されません。</p> <pre>NameTrans fn="ntrans-j2ee" name="j2ee" PathCheck fn="find-index-j2ee" ObjectType fn="type-j2ee" Error fn="error-j2ee"</pre>
6641844	<p>Windows の場合、パッチを使用して Java ES 5 リリースの一部である Web Server 7 から Web Server 7.0 Update 2 リリースにアップグレードしたあとに、サーバーの起動に失敗する。</p>
6644314	<p>セキュリティパッチ 121656-16 は、Java ES 5/U1 における Sun Java System Web Server 7.0 Update 2 Linux パッチに対する必須条件です。ただし、このセキュリティパッチでは循環依存関係が示されるため、いずれのパッチも適用できません。</p>
6640206	<p>Windows 以外 (Solaris、Linux、HP-UX) で、サンプルアプリケーションを使用せずに Web Server 7.0 または 7.0 Update 1 をインストールしており、Web Server 7.0 Update 2 にアップグレードする場合は、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <p>アップグレード中に問題が発生しました。問題を解決するには、次の場所にあるインストールログを確認してください：</p> <pre><install-dir>/setup/Sun_Java_System_Web_Server_install.log</pre> <p>注- このエラーはアップグレードに影響しません。</p>
6559735	<p>サンプルアプリケーションのマニュアルで、プロパティファイルのクラスパスに jar ファイルを追加することを説明する必要がある。</p> <pre>install-dir/samples/java/webapps/security/jdbcrealm/docs/index.html</pre> <p>の「Compiling and Assembling the Application」の節で、<code>jdbcrealm.build.properties</code> ファイルのクラスパスサフィックスに JDBC ドライバ <code>jar</code> ファイルを追加することを説明する必要があります。</p>
6413058	<p>server.xml が、検索を変換して組み込むための全部のファイルパターンを格納しない。</p> <p>スキーマは、このバージョンの Web Server に含まれる管理コンソールと検索管理ツールの両方が許可する全部のファイルパターンを格納しません。また、これは、以前のバージョンの Web Server からの移行を必要とする可能性のある全部のファイルパターンを表現する手段も持ちません。</p>

6632936	<p>Red Hat Linux Enterprise Linux 5 で、検索機能が正常に機能しない。</p> <p>Red Hat Enterprise Linux マシンに <code>compat-libstdc++</code> ライブラリがインストールされている場合、インストールされている <code>rpm</code> を削除し、<code>compat-libstdc++-296-2.96-132.7.2.i386.rpm</code> をダウンロードしてインストールする必要があります。</p> <p>x86 32 ビットおよび 64 ビットの場合は、<code>compat-libstdc++-296-2.96-132.7.2.i386.rpm</code> をダウンロードしてインストールします。</p> <p>注 - 信頼できない場所から <code>rpm</code> をダウンロードおよびインストールしないでください。セキュリティの脆弱性を招く場合があります。</p>
6611067	<p>ファイルシステム SELinux のセキュリティが有効な場合、Red Hat Enterprise Linux インスタンスの開始に失敗する。</p> <p>新しい Linux ディストリビューションには、SELinux プロジェクトから有効な新しいカーネルセキュリティの拡張機能があります。これらの拡張機能を使用すると、システムセキュリティをより詳細に制御できます。ただし、SELinux では共有ライブラリのロードなどのデフォルトシステムの動作の一部も変更されているため、他社のプログラムにとって問題となる可能性があります。Web Server 管理サーバーまたはインスタンスの開始時に、「Cannot restore segment prot after reloc: Permission denied」というメッセージを表示した場合は、システムで SELinux が有効であることを表します。</p>
6602075	<p>Web Server で Sun crypto 1000 を使用するには、Solaris 10 パッチ 125465-02 (SPARC) および 125466-02 (x86) が必要である。</p>
6432870	<p>統計情報が有効化された要素が <code>server.xml</code> ファイル内で <code>false</code> に設定されたときに、サブレットコンテナはその統計情報を収集する。</p>
6567124	<p>Web Server 7.0 で実行している JSF Web アプリケーションを Web Server 7.0 Update 1 で実行すると中断する場合があります。</p> <p>Web Server 7.0 Update 1 には JavaServer Faces 1.2 テクノロジーが付属しています。すべての JavaServer Faces Web アプリケーションは、何の変更を加えなくても Web Server 7.0 Update 1 と連動するはずですが、ただし、JavaServer Faces 1.2 には互換性にいくつかの既知の問題があり、それらの非互換性に対処するためにアプリケーションに変更を加えることが必要になる場合もあります。この非互換性については、次の JavaServer Faces リリースノートで説明されています。 https://javaserverfaces.dev.java.net/rlnotes/1.2_04/issues.html</p> <p>Java ES 5 Portal Server ユーザーは、Java ES 5 Update 1 がリリースされるまで Web Server 7.0 Update 1 へのアップグレードを延期することをお勧めします。</p>
6549619	<p>Windows 2003 で、CLI からコマンドを実行すると、メッセージが正しくエンコードされない。</p>
6630841	<p>FastCGI ハンドラの新規ロールが、常に「英語」名で作成される。</p>
6632818	<p>CGI 設定ページにローカライズされていない文字列が表示される。</p>

6628910	ローカリゼーションロケールの CLI インストーラ「Enter your option」が英語である。
6484181	Portal Server は、 Web Server 7.0 64 ビットの起動時の JVM スタックサイズを 128K に設定するが、これは小さすぎる。 Web Server 7.0 がすでに 64 ビットモードで設定された状態で Portal Server のインストールを開始した場合、Portal Server の構成ではスタックサイズは 128K に設定されません。これに対し、Portal Server と Web Server がどちらもすでに 32 ビットモードでインストールおよび設定されている場合に 64 ビットモードに切り替えるには、「回避方法」の節で説明する一連の手順を手動で実行する必要があります。
6487041	Java ES Web Server インストールでは schemagen/xjc/wsgen/wsimport スクリプトが存在しない。 schemagen/xjc/wsgen/wsimport スクリプトがある場所は、Web Server の Java ES インストール版とスタンドアロンインストール版ではそれぞれ異なります。
6550622	Java ES 5 ソフトウェアを Java ES 5 Update 1 にアップグレードするとき、 Portal Server はアップグレードせずに Web Server のみをアップグレードした場合、 Portal Server サンプルの実行に失敗し、 JSF 例外が発生する。 詳細は、 32 ページの「互換性の問題」 を参照してください。
6643821	SMF コマンドを実行すると、 startserv および stopserv スクリプトから Java ES 環境が削除される (Solaris 10 のみ)。
6549580	Windows で実行中の Web Server にサービスに関する説明が含まれておらず、 Java ES Update 1 パッチの適用後も説明が更新されない。
6641175	POST を使って 2G バイトを超えるデータをサーバーにストリーミングすると、問題が発生する。 request.getInputStream().read() が -1 を返す
6576542	WS 7.0 に付属する、セッションレプリケーション機能を試すためのサンプルを使用できない
6600183	本文を FastCGI Perl に送信後に Transfer-encoding ヘッダーが送信される。
6613414	iWS7.0U1 - Page-encoding が大文字と小文字の区別 (たとえば utf-8 と UTF-8 の区別) をしない
6613865	Cookie の符号化/復号化のサーブレットコンテナ実装が SJSWS6.1 以降から変更された
6641175	POST を使って 2G バイトを超えるデータをサーバーにストリーミングすると、問題が発生する。 request.getInputStream().read() が -1 を返す
6641231	2M バイトを超えるファイルのアップロードが Java Web コンテナに制限される。
6658609	web 7.0 u2 の JDBC リソース設定の待ち時間およびアイドルタイムアウトの最大値に -1 を指定できない
6660297	RDB を再起動すると web70 の JDBC リソースプールが予期どおりに動作しない。

6671260	標準エラー出力メッセージを FastCGI からエラーログにリダイレクトできない。 FastCGI から標準エラー出力に送信されるデータは、エラーログに記録されません。
6671957	ファイル圧縮機能のマニュアルがない (SJSWS7.0)
6671992	Web サーバーマニュアルで、フィルタの適用範囲と内容についてより具体的に記述する必要がある
6680376	特定の htaccess 構成でサーバーがループに陥る
6681681	/context-root (コンテキストのルート) と指定して Web アプリケーションの開始ファイルリストをアクセスすると、フィルタが2回適用される 開始ファイルを /context-root としてアクセスすると、現在のフィルタが2回適用されます。
6708333	web 7.0 u2 patch 125437-13 は前提条件として nss patch 3.11.8 以降が必要であることをドキュメント化すべきである
6697002	pull-config を実行すると、 config/ ディレクトリ内のバイナリファイルが、トークン化が原因で文字化けする (SJSWS7.0u2)
6701520	インストール中にユーザーが特定の umask 設定をしている場合、インスタンスが起動しない
6710993	es 、 fr - OLH がスローされた例外を表示しない

この節では、Web Server 7.0 Update 2 で解決済みの問題を一覧表示します。

問題 ID	説明
6467621	「 Sun Software PKCS#11 softtoken 」使用時にサーバーへの要求が失敗する。
6493271	Web Server 7.0 における Java ガベージコレクタのアクティビティーが、 Web Server 6.1 の場合と比較して高い。 Web Server 7.0 のサーブレットコンテナは、多数の Java オブジェクトを作成します。
6497803	部分要求と welcome ファイルによって形成された要求 URI にサーブレットがマップされた場合、その動作が正しくない。 Web コンテナは、有効な部分要求を受け取ると、配備記述子内に定義された welcome ファイルリストを調べる必要があります。 welcome ファイルリストとは、先頭や末尾に / が付いていない部分 URL の、順序付けされたリストのことです。Web Server は、各 welcome ファイルを配備記述子内で指定された順番で部分要求の末尾に追加し、静的リソースまたは WAR ファイル内のサーブレットがその要求 URI にマップされているかどうかをチェックする必要があります。Web コンテナは、 WAR 内で最初に一致したリソースに、その要求を送信する必要があります。

6316881	<p><code>req.getHeader()</code> でヘッダー内の複数バイト文字を取得できない。 <code>request.getHeader()</code> の呼び出し時に、文字が正しく解析されません。</p>
6554326	<p>ハードコードされたメッセージ "ADMIN3594: Configuration changes require a server restart" がローカライズされていない。</p>
6565615	<p>日本語ロケールのオンラインヘルプで、「認証データベースの編集 (Editing Authentication Databases)」の PAM に関する説明で Directory Server の名前が誤って記述されている。</p> <p>正しい説明は次のようになります。「認証データベースの編集」 PAM -- PAM は Sun Java System Web Server 7.0 によってサポートされる新しい認証データベースです。</p>
6563951	<p>先頭にスラッシュが付いた検索コレクションサブディレクトリが原因で、紛らわしいエラーが発生する。</p> <p>検索コレクションを作成し、先頭にスラッシュが付いたドキュメントルートサブディレクトリを設定しようとすると、先頭にスラッシュが必要であることを誤って通知するエラーメッセージが表示されます。</p>
6571208	<p>ディレクトリ一覧表示タイプに一貫性のない表現がある。</p> <p>「インデックス作成が「なし」のときに使用するエラー応答ファイル」という一文を、「一覧表示が「なし」のときに使用するエラー応答ファイル (Error response file to use when listing is None)」に変更する必要があります。</p>
6549584	<p>国名一覧の中で「Other」という単語が翻訳されていない。</p>
6556225	<p>「ドキュメントの追加」ウィンドウで、サブディレクトリの「含める」チェックボックスが翻訳されていない。</p>
6565615	<p>日本語ヘルプ: 「認証データベースの編集 (Editing Authentication Databases)」の PAM に関する説明が誤っている。</p>
6628918	<p>日本語の管理 GUI メッセージの翻訳に問題がある。</p>
6628917	<p>GUI インストーラ OLH の翻訳に問題がある。</p>
6604075	<p>Java ES で、Web Server 7.0 起動時に Access Manager で null ポインタ例外が表示される。</p>
6479062	<p>Solaris SPARC、Linux、および HP-UX プラットフォームで HTTP リスナープロトコルファミリを nca に設定すると、Web Server が起動しない。</p> <p>EditHTTPListener ウィザードで Protocol-Family プロパティを nca に設定すると、Web Server インスタンスは再起動しません。</p>
6464953	<p>set-authdb-prop CLI を使用して digestauthstate プロパティを設定すると、値の検証が行われず、このプロパティにとって無意味な値が許可されてしまう。</p>
6504050	<p>管理コンソールのすべてのウィザードの「結果」ページで、位置合わせを適切に行うべきである。</p>

6473376	デフォルトの server.xml に <code><stack-size></code> 要素を含めるべきでない。
6367751	create-instance コマンドがリモートノード上で断続的に失敗し、 HTTP 400 エラーがログに記録される。
6547264	あるリモートノードの起動直後に create-instance コマンドを実行すると、そのリモートノード上でそのコマンドが失敗する。
6468132	ニックネームにコロンが含まれる証明書は、 list-cert コマンドを実行しても表示されない。
6437577	<code><pkcs11></code> 要素は、子要素が存在しなくても server.xml から削除されない。
6473589	トークン PIN を設定すると、 <code><pkcs11/></code> が server.xml に追加される。
6534202	管理コンソール経由で WebDAV コレクションプロパティを編集できない。 同じ構成が複数のノードに配備されている場合には、共用の場所として lockdb パスをすべてのノードで同じパスにマウントする必要があります。また、管理コンソールから lockdb 内のロックをリストしたり失効させたりするには、この同じパスに対して管理サーバーを書き込み可能にしてください。
6554691	add-webapp コマンドに JSP プリコンパイルオプションを指定して実行すると、コマンドは以前にプリコンパイルした JSP ファイルを削除しない。
6556820	管理コンソールまたは管理 CLI は、管理サーバーへの CA 証明書の追加をサポートしていない。
6489269	引用符で囲まれたパスを含む「 external 」式関数が、動作しない。
6432375	HP-UX 上で、一部の OID 値に対して SNMP が失敗する。
6483212	HP-UX 11.11 上で、最大ヒープサイズが 2048M バイト以上である場合に Web Server の起動が失敗する。
6474011	basic-search.html の説明が不明瞭である。
4988156	スタンドアロン製品を既存の Java ES インストール上にインストールすること、およびその逆がサポートされていない。
6610103	Windows で Java を無効化したあとに、構成を配備して起動することができない

この節では、Web Server 7.0 Update 1 で解決済みの問題を一覧表示します。

バグ ID	説明
6390112	Java LDAP 接続プールの相互作用の問題 - 初期接続がタイムアウトしない。 server.xml ファイル内で JVM オプションを使って Java LDAP 接続プールを指定し、このプールを Web Server 起動時に外部 JNDI リソースを使って参照すると、プールされた LDAP 接続が作成されます。この接続があると、プールは常にビジーとして指定され、この接続の有効期限が切れることはありません。

バグID	説明
6472223	「 mail-resource 」サブ要素の値がメールセッションオブジェクトに設定されない。
6487083	NSAPIRequest.setupRequestFields が低速である。 com.sun.webserver.connector.nsapi.NSAPIRequest.setupRequestFields が低速です。その主な原因は、Cookie ヘッダー解析時に、文字列からバイトおよびバイトから文字列への変換が過剰にあるためです。
6501785	サーブレットコンテナが、 RequestDispatcher インクルードの処理時にアクセラレータキャッシュを使用しない。
6500647	Windows 上で JSP の動的再読み込みを行うと、不正な出力が生成される。
6433752	ssl-check が NSAPI ベースのプラグインと連携動作しない。 "PathCheck fn="ssl-check" secret-keysize=128 bong file="xxxxx.yyy.html" 静的ファイルの要求に対し、クライアントの secret-keysize がサーバーによって指定されたサイズよりも小さく、かつ bong ファイルが存在しているならば、その bong ファイルは応答として送り返されます。ところが、動的コンテンツ (JSP ファイルなど) が要求された場合には、bong ファイルではなく、実際に要求されたオブジェクト (たとえば、JSP ファイル) が返されます。
6421617	サーバーにより解析される HTML (ParseHTML) と「 restricted by group 」オプションを含む .htaccess で問題が発生する。 shtml インクルードエントリを含み、「restricted by group」オプションが有効化された .htaccess 経由で認証されるように設定された HTML ファイルを解析すると、認証が成功します。グループユーザーが認証されても、結果ページは shtml インクルードエントリを取得しません。ただしこれは、「restricted by user」オプションを含む .htaccess ファイル内のユーザーとは正常に連携動作します。
6489913	SSL のセッションキャッシュを無効にできない。 セッションキャッシュはデフォルトで有効になっています。セッションキャッシュが無効になった状態で HTTPs プロトコル経由で URL にアクセスすると、URL の処理は完了せず、サーバーログには、session-cache なしでは SSL を設定できないことを示すエラーメッセージが表示されます。
6302983	サンプルが「 Sun Java System 」ではなく「 Sun ONE 」を参照している。 Web Server 7.0 に同梱されているサーブレットサンプル LocaleCharsetServlet.java は、「Sun Java System」ではなく「SunONE」を参照しています。
6495588	sampleapps/java/webapps/simple のドキュメントは無効である。 単純なサンプルアプリケーションのドキュメントに、不正なパス名が記載されています。パスは <i>install_dir/samples/java/webapps/simple/src</i> ではなく、 <i>install_dir/plugins/java/samples/webapps/simple/src</i> にしてください。
6347905	FastCGI を設定するための CLI サポートがない。 obj.conf または magnus.conf ファイルを手動で編集して、 FastCGI を設定する必要がある。

バグID	説明
6504587	FastCGI にメモリーリークが見つかった。
6479045	管理コンソールのオンラインヘルプを更新する必要がある。 オンラインヘルプは、次の理由のために更新する必要があります。 1. コンテキストベースのヘルプを提供すべきである。 2. すべての画面について、対応するヘルプページを用意する必要がある。 3. GUIの変更をヘルプページに反映させる必要がある。 4. GUIとオンラインヘルプとの間で、用語の使用法に一貫性がない。 5. 文法上の間違いを修正する。 6. いくつかのトピックについて詳しく説明する。
6482764	オンラインヘルプと管理コンソールとの間に不一致がある。
6498477	トークン設定ページにヘルプファイルが存在しない。 「共通操作」>「構成を編集」>「証明書」>「PKCS11 トークン」の画面にヘルプファイルがありません。
6479062	HTTP リスナーファミリを動的に再設定できない。プロトコルファミリを nca に設定すると、インスタンスが起動しない。
6482536	<listen-queue-size> の上限が 65535 に設定されているが、これでは小さすぎる。 <listen-queue-size> の上限を引き上げる必要がある。
6500715	新しい cgi ディレクトリの作成時に不正な ObjectType fn="force_type" が object.conf に追加される。 新しい cgi ディレクトリの作成時に、不正なオブジェクトタイプ force_type が obj.conf ファイルに追加されます。
6479247	Windows 上で、配備後にインスタンスを再起動すると、トークンパスワードの入力ダイアログボックスが表示される。この動作はほかのプラットフォームでは見られない。
6425144	Windows の場合、クラスパスにセミコロン (;) が含まれていると、 wadm がクラスパスを正しく更新しない tcl 内のセミコロンはコマンドターミネータとして解釈され、単一行中の複数のコマンドを分類するために使用されます。 Windows では、セミコロンはパス区切り文字として使用されます。
6292582	「 iwsFractionSysMemUsage 」の SNMP 管理情報ベース (MIB) が正しい結果を表示しない SNMP マネージャーユーティリティがクエリーを発行したときに、 iws.mib の一部である、 SNMP MIB の「システムメモリー中のプロセスメモリーの一部」が間違った結果を出力します。
6471744	設定値を指定せずに list-tokens コマンドを実行すると、不正なエラーメッセージが表示される。

バグID	説明
6471754	認証データベース値を指定せずに list-authdb-userprops コマンドを実行すると、不正なエラーメッセージが表示される。
6472210	無効な http-listener 値を指定して get-ssl-prop コマンドを実行した場合、エラーメッセージが表示されない。
6476111	管理コンソールを使って MIME タイプを編集できない。
6478601	存在しないインスタンスを停止させると、不適切なメッセージが表示される。 存在しないインスタンスを停止しようとする、エラーメッセージ「サーバーインスタンスは正常に停止しました。」が表示されます。
6480523	wadm によって、負のポート番号を含む設定が許可される。
6489765	無効な key-size 値を指定して create-cert-request コマンドを実行した場合、不正なエラーメッセージが表示される。
6489777	delete-group コマンドで無効なグループ値を指定すると、不正なエラーメッセージが表示される。
6489779	無効な group-ID 値を指定して list-group-members コマンドを実行した場合、エラーメッセージが表示されない。
6490728	set-reverse-proxy-prop コマンドを使って rewrite-location プロパティを設定できない。 -rewrite-location プロパティを false に設定することはできません。-rewrite-location に指定された値は検証されません。たとえば、i-rewrite-location オプションに = 記号を指定すると、obj.conf ファイルが破壊され、パーサーエラーが発生します。
6492315	set-token-prop コマンドでトークン PIN を指定していなくても、 server.xml ファイル内に間違ったパスワードが設定される。
6492469	LDAP ユーザー作成の失敗時に不正なエラーメッセージが表示される。
6494353	インスタンスの削除中に無効なノード名を指定すると、不正なエラーメッセージが表示される。
6494950	register-node コマンドは、シェルモードでのみ、非 SSL ポートで正常に実行される。 シェルモードでは、-no-ssl オプション付きで register-node コマンドを入力すると、ノードが正常に登録されます。なぜなら、コマンドが間違っても SSL モードで実行されるからです。
6405018	シェルモードでエコーが有効なときに、 get-jvm-prop コマンドによってこのコマンドが出力されない。
6499507	list-locks および expire-lock コマンドの実行時に不正なエラーメッセージが表示される。

バグID	説明
6499510	設定名を指定せずに list-instances 、 list-crls 、 list-tokens 、および list-certs コマンドを実行すると、「 null 」メッセージが表示される。
6499512	list-url-redirects コマンドのエラーメッセージがローカライズされていない。
6500119	ある既存の証明書を削除しようとしているときに無効な設定名を指定した場合、 wadm によってトークン PIN の入力求められる。
6500146	CLI を使用して HTTP リスナーを作成するときに、名前として null 値を持つリスナーが create-http-listener コマンドによって作成される。
6500150	list-dav-collections コマンドの実行時に仮想サーバーを指定しなかった場合、不正なエラーメッセージが表示される。
6500151	list-users 、 list-org-units 、 list-groups 、および list-group-members コマンドの実行時に認証データベースを指定しなかった場合、不正なエラーメッセージが表示される。
6500152	list-uri-patterns コマンドの実行時に仮想サーバーを指定しなかった場合、不正なエラーメッセージが表示される。
6500154	list-jdbc-resource-userprops 、 list-soap-auth-provider-userprops 、 list-auth-realm-userprops 、 list-external-jndi-resource-userprops 、 list-custom-resource-userprops コマンドの実行時に、 JNDI 名を指定しなかったか無効な JNDI 名を指定した場合、不正なエラーメッセージが表示される。
6503350	無効な wadm コマンドを入力したときに表示されるエラーメッセージが誤解を招く恐れがある。 無効なコマンドを入力すると、エラーメッセージ「無効なコマンド<コマンド名>。有効なコマンドのリストを表示するには、「 help 」コマンドを使用してください。」が表示されます。 help のマニュアルページには、有効なコマンドのリストは含まれていません。したがって、このエラーメッセージは誤解を招く恐れがあります。
6503944	LDAP 認証データベースに対する create-user コマンドの使用法があいまいである。
6504095	set-cert-trust-prop コマンドによって不正なプロパティが受諾され、適切なエラーメッセージが表示されない。
6443845	指定されたトークンのパスワードの長さや機構のサポートが、管理サーバーによって検証されない。
6449506	既存の証明書と同じサーバー名を持つ証明書を、同じニックネームで作成できない。
6461553	「仮想サーバーの Web アプリケーション」ページのタイトルのヘルプが正しくない。
6473518	インスタンス起動時にトークン PIN を入力するプロンプトは、設定が配備されていない場合には表示されないようにすべきである。

バグID	説明
6476095	ドキュメントディレクトリおよび CGI レコードを編集するオプションが、管理コンソールに用意されていない。
6476736	仮想サーバーレベルで MIME マッピングを追加および編集するためのタブを、管理コンソールに用意すべきである。
6478090	「ノード」->「管理サーバーを選択」->「証明書」->「トークンパスワード管理」ページの「現在のパスワード」フィールドは、管理者のトークンパスワードが設定されていない場合は無効化すべきである。
6490705	管理コンソールを使って URI パターンに固有の設定を行えない。
6496545	管理 CLI 経由でカスタム認証データベースユーザープロパティーを作成すると、管理コンソールに無効なプロパティーが表示される。
6502303	管理コンソールの「移行」ウィザードで「完了」ボタンを複数回クリックすると、複数の設定が作成される。
6504495	管理コンソールには 508 コンプライアンスの問題がある。
6504951	「共通操作」->「仮想サーバーを編集」->「WebDAV」->「新規」ページのユーザー選択プロセスで、検証を行う必要がある。
6360666	インストールされた CRL は、意味のある名前を持つべきである。
6364821	管理 CLI は、URI、URI プレフィックス、URI ワイルドカードパターン、および URI 正規表現を、URI 空間で動作するすべてのコマンドに対してサポートすべきである。
6366956	スケジュールイベントの検索機能が、管理コンソールから正しく機能しない。
6378612	64 ビットのインスタンスが 32 ビットのリモートノード上で起動しない。
6423391	DER 形式以外のデータを含むサーバー証明書をインストールするときに、不正なエラーメッセージが表示される。
6439132	「証明書インストール」ウィザードの例外が不明瞭である。
6468676	「Java ホーム」フィールドの検証機能が存在しない。無効なデータが受諾されてしまう。
6474668	「HTTP リスナー」フィールドに空白文字を含む名前が受諾される。これは無効である。
6476111	管理コンソールまたは CLI のいずれを使っても MIME タイプを編集できない。
6483365	GUI と CLI で、移行用の Web Server 7.0 のサーバールートが受諾されてしまう 管理コンソールと CLI では移行時に、Web Server 6.1 や Web Server 6.0 のパスの代わりに Web Server 7.0 のパスが受諾されます。Web Server 7.0 のパスは、migrate-server コマンドの server-root プロパティーの有効なパスではありません。

バグID	説明
6492176	管理コンソールを使って新しい設定を作成および保存するときに、デフォルト値や null 値が obj.conf 内に格納される。 管理サーバーは、管理コンソールから渡された値を、何の検証も行わずに obj.conf ファイル内に格納します。
6497004	set-authdb-prop 実行時に CLI 上に SaveConfigException が表示される。 set-authdb-prop コマンドを使用して存在しないファイルパスを keyfile authdb の path プロパティに指定した場合、 File does not exist というメッセージの代わりに、 SaveConfigException が発生します。 管理サーバーのエラーログを参照してください。
6497143	stop-admin コマンドの実行時に、管理サーバーが実際に実行中であるのに「管理サーバーは停止中です」というメッセージが表示される場合がある。
6498411	get-cert-prop では、< displayproperties > 要素内に記載されたプロパティだけが表示されない。
6500715	cgi-bin ディレクトリ内のファイルにアクセスしようとすると、サーバーエラーが発生する。
6364702	wadm コマンドの成功時または失敗時に、有効なエラーコード [0-125] が返されない。
6370032	RequestDispatcher インクルード呼び出しを使用すると、セッションフェイルオーバーが実行されない。 1つのクラスタ上に2つの Web アプリケーションを配備し、一方のアプリケーションが他方のアプリケーションを RequestDispatcher() インクルード呼び出しを使用して呼び出すようにした場合、 RequestDispatcher() の invoke() メソッドの実行中に持続性バルブが呼び出されないため、セッションレプリケーションが実行されません。
6381950	BaseCache に不正な負荷係数が設定される。 セッションレプリケーションは3つ以上の Web アプリケーションをサポートしません。
6381954	RequestDispatcher に関連する複数の Web アプリケーションでは、不正なシーケンスが原因でセッションレプリケーションの実行が失敗する。
6383313	SR-instanceId Cookie に不正なパスが設定される。 SR-instanceId Cookie には、サーブレットのパスではなく Web アプリケーションのパスが設定されるべきです。
6450360	create-authdb コマンドで、認証データベース (authdb) の作成時に URL が検証されない。 create-authdb コマンドを実行すると、間違った URL を持つ認証データベースが正常に作成される。

バグID	説明
6450800	get-error-log および get-access-log コマンドで、雑然とした不適切なメッセージが表示される。
6459106	wadm deploy によるクラスタ設定の配備が失敗する。 手動またはその他の手段によってインスタンスの設定ファイルに何らかの変更が加えられた場合、 deploy-config コマンドによって、インスタンスが変更されたことを知らせるエラーメッセージが表示されます。
6462891	Web アプリケーションをユーザー固有の場所に配備するための管理コンソールが存在しない。
6439577	wadm コマンドプロンプトから間違っただトークン PIN を使ってインスタンスが起動されたときに、トークンパスワードが求められない。
6465470	「グループ設定」ページのテキストが間違っている。 テキストは「このページから、選択した認証データベース内のユーザーグループを追加/削除します。」ではなく、「このページから、選択した認証データベース内のユーザーグループを追加/削除できます。」とすべきです。
6465480	JVM プロファイラを削除するときのメッセージが不正である。 メッセージは「プロファイラが正常に保存されました」ではなく「プロファイラが正常に削除されました」とすべきです。
6466409	Web アプリケーションの追加時に間違っただパスを指定すると、不正なエラーメッセージが表示される。
6467164	管理コンソールウィザードのウィンドウタイトルに一貫性がない。
6467785	無効な Directory Server 設定値を入力すると、管理コンソールに不正なエラーメッセージが表示される。
6470585	ドキュメントディレクトリの URI プレフィックスが「\」を含まない値を受諾してしまう。
6471737	list-instances コマンドで、設定値を指定しなくてもインスタンスが一覧表示される。
6472385	CLI 経由で行なったトークンパスワードの変更が GUI に反映されない。ブラウザを再描画する必要がある。
6467665	migrate-jks-keycert コマンドを使って無効なファイルパスを持つ証明書を移行しようとする、 keystore-password と key-password の入力を求められる。
6469104	create-selfsigned-cert コマンドでサーバー証明書を作成するときに、不適切な有効期間を定義できてしまう。
6469109	delete-cert コマンドでは、トークン「 Sun Software PKCS#11 softtoken 」を使って作成された証明書が削除されない。
6471649	list-events コマンドの出力が正しく位置合わせされていない。

バグID	説明
6474584	<p>dayofweek が「*」をオプションとして受け取らない。 たとえば、ACLを次のように設定します。</p> <pre>acl "uri="/; deny (all) dayofweek="*"; allow (all) dayofweek="Sat,Sun";</pre> <p>このプログラムでは、土曜日と日曜日を除いたすべての曜日のアクセスを制限しようとしています。このプログラムは正しく機能しません。なぜなら、月曜日にこのACLに正常にアクセスできるからです。</p>
6477840	<p>クラスパスのプレフィックス、クラスパスのサフィックス、およびネイティブライブラリパスのプレフィックスを入力するための広いテキスト領域を、管理コンソールに用意すべきである。</p>
6478165	<p>「CRL をインストール」 ページでは、サーバー上の CRL ファイルへの不正なファイルパスが入力されたあとのユーザビリティに問題がある。</p>
6478229	<p>「インスタンス」 -> 「新規」 ページのタイトルが正しくない。</p>
6478292	<p>「共通操作」 -> 「構成を選択」 -> 「仮想サーバーの選択」 -> 「仮想サーバーを編集」 -> 「WebDAV」 -> 「新規」 ページに「ユーザー」の入力フィールドが表示されるのは、認証データベースが PAM の場合だけにすべきである。</p>
6478303	<p>管理コンソールでは、ACL のユーザー情報またはグループ情報を入力しなくても ACE を作成できる。認証データベースが PAM かどうかのチェックが行われな</p>
6478612	<p>「要求ヘッダータイムアウト」 テキストフィールドに受諾される値の範囲に関するインラインヘルプが間違っている。</p>
6500228	<p>ある MIME タイプの重複するレコードを作成すると、管理コンソールに例外が表示される。</p>
6501807	<p>管理コンソールを使用して新しい Web アプリケーションを配備すると、既存のすべての Web アプリケーションのセッションが終了する。</p>
6504748	<p>インスタンス削除オプションを使うと、アンインストーラは、シンボリックリンクを削除する代わりにシンボリックリンクからファイルを削除する。</p>
6505994	<p>URI パターンが空のままプロパティを作成するとクラッシュが検出される</p>
6510486	<p>htaccess 規則がメモリー内で破壊される可能性がある。</p> <p>単一の .htaccess ファイルに6つ以上の許可規則または拒否規則が含まれている場合、いくつかの規則がメモリー内で破壊される可能性があります。この問題が発生すると、いくつかの規則の処理が無視される可能性があります。</p>

バグID	説明
6506936	<p>インスタンスの webapps ディレクトリ内で JSP またはその他のファイルを変更すると、deploy-config が失敗する。</p> <p>管理コンソールまたは CLI から pull-config を使うと、instance_dir/config ディレクトリの中身だけが config-store に取り込まれます。Web Server 7.0 では、pull-config を使うと、中身は instance_dir/config、instance_dir/lib、および instance_dir/web-app ディレクトリに取り込まれていました。</p>
6492407	<p>フロントエンドファイルのアクセラレータキャッシュ。</p> <p>ACL および obj.conf の設定によっては、フロントエンドアクセラレータキャッシュは、NSAPI を使って以前に処理された URI に対する静的ファイル要求を処理できます。アクセラレータキャッシュはデフォルト設定で実行する必要があります。</p>
6498928	<p>0 バイトのファイルに対して、出力指令が呼び出されません。</p> <p>応答の長さが 0 の場合は、protocol_start_response() が呼び出されないかぎり、出力指令は呼び出されません。send_file は protocol_start_response() 関数を呼び出しません。0 バイトのファイルを送信しても、出力指令は呼び出されません。</p>
6502258	<p>出力バッファが大きいとサーバーがクラッシュする。</p> <p>出力ストリームバッファサイズが入力バッファサイズよりも大きい場合、サーバーが無効なアドレスにデータをバッファリングしようとする可能性があります。デフォルトの入力バッファサイズは、8192 バイトです。</p>
6504755	<p>デフォルトサーバーインスタンスでアクセスロギングを無効にできない。</p> <p>server.xml ファイル内では、<access-log> <enabled> 要素の値が無視されます。</p>
6505390	<p>アクセラレータキャッシュが ssl-unclean-shutdown プロパティを処理しない。</p> <p>アクセラレータキャッシュが、デフォルト設定内の AuthTrans fn="match-browser" browser="*MSIE*" ssl-unclean-shutdown="true" 指令と正しく相互に作用しません。そのような指令が存在する場合、アクセラレータキャッシュは、使用するブラウザの種類にかかわらず、「クリーンでないシャットダウン」設定をすべての接続に適用します。</p>
6432375	<p>HP-UX 上で、一部の OID 値に対して SNMP が失敗する。</p> <p>回避方法</p> <p>HP-UX API のサポートの欠如およびその複雑さのために、ネットワークの入出力トラフィック統計情報が実装されていません。トラフィック統計情報を監視するには、HP のツールを使用してください。</p>
6430293	<p>管理コンソールに表示される AdminException メッセージがローカライズされていない。</p>
6508299	<p>英語以外のロケールで、オンラインヘルプの左パネルに、検索結果が文字化けして表示される。</p>

バグID	説明
6507819	ローカライズ版のオンラインヘルプのコンテンツが、英語版と一部異なっている。
6536820	Tinderbox 上で QA 回帰テストの実行時に、断続的に deploy-config が失敗する。

既知の問題点

この節では、Web Server 7.0 Update 3 のリリース時点における重要な既知の問題および制限事項を一覧表示します。

- 51 ページの「管理」
- 56 ページの「コア」
- 57 ページの「FastCGI」
- 57 ページの「インストール」
- 59 ページの「移行およびアップグレード」
- 60 ページの「サンプルアプリケーション」
- 60 ページの「検索」
- 60 ページの「セキュリティー」
- 61 ページの「セッションレプリケーション」
- 61 ページの「Web コンテナ」
- 62 ページの「ローカリゼーション」
- 63 ページの「Java Enterprise System」

管理

次の表に、Web Server の管理における既知の問題の一覧を示します。

表4 管理における既知の問題

バグID	説明
6364924	<p>あるノードを複数の管理サーバーに登録すると、これにより設定の衝突が発生する可能性がある。</p> <p>ある1つのノードを、最初の管理サーバーへの登録を取り消すことなしに2番目の管理サーバーにも登録できます。ただしこの場合、ノードはどちらの管理サーバーへもアクセスできなくなります。</p> <p>回避方法:</p> <p>登録のたびに管理ノードを再起動します。その管理ノードは、登録先として最後に使用した管理サーバーに対して使用可能になります。</p>

表4 管理における既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
6379125	<p>wadm コマンドが、ノードへの接続を許可し、証明書を表示したあと、「HTTP 400 Error」をスローする。</p> <p>ある管理ノードが接続を受け取ると、その管理ノードはその接続が管理サーバーからのものであるかをチェックしないまま処理を続行します。これは、不適切なエラーメッセージを出力するだけでなく、さらにパスワードの入力をユーザーに求めます。</p>
6327352	セッションレプリケーションが有効なインスタンスが、クラスタ内のほかのインスタンスが起動されていない場合に正常に起動されない。
6393534	migrate-jks-keycert コマンドを使って Java キーストア keycert を移行したあとで、 list-certs コマンドを使って移行された jks keycert を一覧表示しようとすると、証明書のニックネームの代わりに CN 、 org などの情報が表示される。
6407486	wadm set-ssl-prop コマンドを使った SSL プロパティの設定時に、 server-cert-nickname プロパティが、サーバー証明書のニックネームだけでなく、すべての証明書のニックネームを受諾してしまう。
6443742	<p>「ノード」オプションに修飾されたドメイン名を指定すると、set-session-replication-prop CLI コマンドが正しく動作しない。</p> <p>回避方法</p> <p>set-session-replication-prop コマンドで、有効なノード名として list-nodes コマンドの出力を使用します。</p>
6468570	wadm のプロンプトで「 yes 」を指定すると、 CLI がクラッシュする。
6469676	管理証明書の期限が切れたあとで管理サーバーに接続しようすると、不正なエラーメッセージが表示される。
6480600	管理サーバーのディスク容量が不足すると、 register-node コマンドによって不正なエラーメッセージが表示される。
6495446	デバイス上にディスク容量がない場合に、 wadm によって不正なエラーメッセージ「管理サーバーと通信できません。」がスローされる。
6502800	<p>「--all」オプションと「--instance」オプションを両方指定して migrate-server コマンドを実行しても、エラーにならない。</p> <p>相互に排他的なオプションをユーザーが設定しようとしていることを示す、警告メッセージまたはエラーメッセージを表示すべきです。</p>
6416328	<p>管理コンソールの「インスタンスを起動」ボタンが、すでに実行中のインスタンスに対して有効になる。</p> <p>ボタンの有効化/無効化は、インスタンスの状態に基づくべきです。</p>

表4 管理における既知の問題 (続き)

バグID	説明
6418312	wadm によって、重複したユーザープロパティの定義が許可される。 重複したユーザープロパティを追加してもエラーメッセージは表示されません。それにもかかわらず、新しいユーザープロパティは作成されません。
6421740	管理コンソールまたは CLI を使って新しいアクセス制御リスト (ACL) ファイルを作成する機能がプロビジョニングされていない。
6423432	Windows 上で既存の設定を使用して、登録済みノードを追加して削除する処理を繰り返すと、検証が失敗する。
6430417	MIME タイプに複数バイト文字を含む MIME 値が許可される。
6442081	「アクセス制御リスト」 ページ内のテキストがフォーマットされていない。
6442172	あるユーザーを認証データベースから削除しても、 ACE の「選択可能」リストと「選択」リストとの間でそのユーザーを切り替えることができる。
6446162	キーまたは digestfile 認証データベースを削除する前に警告が発行されない。
6448421	管理インタフェースによって、複数バイトのユーザー ID を持つ新しいユーザーがキーファイル認証データベース内に作成できてしまう。
6455827	管理コンソールの「ユーザー」 および「グループ」 テーブルで結果の全体が単一ページ内に表示される。
6461101	管理コンソールの「自己署名付き証明書を作成」 ページの「証明書を要求」と「インストール」 ボタンのラベルを改訂する必要がある。
6462057	「選択可能」 リストに項目が存在していない場合でも、新しい ACE ウィンドウの「追加」 ボタンと「削除」 ボタンが有効になる。
6464891	管理コンソールでのサーバーログの表示が 50 行または 2 ページに切り詰められる。
6465382	証明書要求ウィザード内の間違った国番号のエントリをチェックするための検証機能が存在しない。
6465421	管理コンソールで、仮想サーバー、認証データベース、 dav コレクション、イベントの各フィールドに対するテキストフィールドの説明が提供されていない。
6466336	新しい設定を作成するときに、管理コンソールに間違った JDK バージョンが表示される。 管理コンソールに表示される JDK バージョンは、 5.0u7 ではなく 5.0u6 です。
6471171	「ノード」 -> 「管理サーバー」 -> 「一般」 タブから管理サーバーを再起動すると、スタイルフォーマットが失われる。
6471367	同じブラウザの別のタブ内の管理コンソールをアクセスしようとしても、うまくいかない。

表4 管理における既知の問題 (続き)

バグID	説明
6471792	「ログを表示」で結果が単一ページに表示される。 レコードサイズに選択される検索条件は25ログエントリですが、50を超えるログエントリが存在する場合でも、ログは結果を単一ページ内に表示します。
6472932	トークンパスワードをいったん削除してから「共通操作」->「構成を選択」->「構成を編集」->「証明書」->「PKCS11トークン」ページでリセットすると、トークン不一致エラーが表示される。
6486037	「仮想サーバー管理」->「コンテンツ処理」->「ドキュメントディレクトリ」->「追加」に、追加ドキュメントディレクトリのパスを選択するための参照オプションを用意すべきである。
6492906	管理コンソールに表示される WebDAV コレクションロックに関するメッセージが、誤解を招く恐れがある。 WebDAV コレクションのタイムアウト値として <code>infinite</code> を指定した場合、「共通操作」->「構成を選択」->「仮想サーバーの選択」->「仮想サーバーを編集」->「WebDAV」->コレクションを選択すると、ページに、メッセージ <code>DOES NOT EXPIRE</code> が表示されます。これが実際に意味するところは、特定の時間が経過してもロックの有効期限が自動的に切れることはない、つまりタイムアウトが無限である、ということです。
6498484	「パスワードの設定」ボタンを使って空のトークンパスワードを設定すると、不正なエラーメッセージが表示される。
6500157	トークンパスワードを編集し、すでに実行中のインスタンス上に設定を配備しようとする、そのインスタンスの再起動が失敗する。
6502287	構成を削除してから「移行」ボタンをクリックすると、管理コンソールに例外が表示される。
6502374	管理コンソールの各ウィザードの「確認」画面には、値を持つフィールドだけが表示されるべきである。
6502793	移行中に、 log-dir パスのアクセス権の検証が行われない。
6266358	管理パスワードに拡張 ASCII 文字が含まれていると、管理 CLI 経由でログインできない。
6361329	エラー応答ファイルの名前を検証すべきである。
6367282	期限切れの証明書で管理サーバーが起動してしまう。 wadm は期限の切れた証明書について警告すべきである。
6375505	unregister-node コマンドは、管理ノード上の証明書のクリーンアップも行うべきである。
6408169	WebDAV ロック CLI がクラスタ環境で機能しない。

表4 管理における既知の問題 (続き)

バグID	説明
6408186	同じ管理サーバーに登録されている同一のノード上に管理ノードを複数インストールすることは、許可すべきではない。
6416369	管理ノードの URL にアクセスすると、 Page Not Found エラーが発生する。 管理ノードは GUI を持たないため、管理ノードの URL にアクセスすると Page Not Found エラーになります。
6422936	Java の「JVM パス設定」で、クラスパスのプレフィックスとサフィックス、およびネイティブライブラリパスが検証されない。
6423310	server.xml の要素を機能に基づいてグループ化すべきである。
6441773	Windows では、 Web アプリケーションを停止する前に、管理サーバーが Web アプリケーションのファイルを物理的に移動する。
6462515	config ディレクトリ内に実行時ファイルが作成された際に管理コンソールに表示される「インスタンス設定が変更されています」というメッセージは、ユーザーの誤解を招く恐れがある。
6462579	ある管理ノードを管理サーバーから登録解除したあとでその管理ノードをアンインストールしても、トラストストアが削除されない。
6468330	JavaHome プロパティに加えた変更は、インスタンスの再起動後には保存されない。
6491749	obj.conf ファイルの破壊を防ぐために、特定のテキストフィールドでより本格的な検証を行う必要がある。 フォーム内のデータの機能的検証のほとんどは、バックエンドで行われます。GUI では、空フィールド、整数値、ASCII 値など、最小限のチェックのみを行います。したがって、解析時に破壊されるようなデータが、GUI によって obj.conf 内に格納されます。
6497213	restart-admin コマンドに続けて stop-admin コマンドを実行すると、管理エラーログに例外がスローされる。

表4 管理における既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
6587832	<p>Windows で、管理コンソールが断続的に起動しなくなる。</p> <p>回避方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> この問題は、Windows 2003 で「Internet Explorer セキュリティ強化の構成」が有効になっている場合に発生します。 セキュリティー強化機能を無効にせずに管理コンソールにアクセスするには、ブラウザの信頼済みサイトのリストに、サイトを明示的に含めてください。 Internet Explorer のセキュリティー強化の構成を無効にするには、「コントロールパネル」>「プログラムの追加と削除」>「Windows コンポーネントの追加と削除」を選択します。 「Internet Explorer セキュリティ強化の構成」の隣にあるチェックボックスを選択解除します。 ブラウザを再起動します。

コア

次の表に、Web Server のコアにおける既知の問題の一覧を示します。

表5 コアにおける既知の問題

バグ ID	説明
6296993	ある obj.conf 指令の実行時にエラーが発生した場合、問題の指令が見つかった場所のファイル名と行番号がログに記録されない。
6365160	データ型の制約違反のために server.xml のスキーマ検証が失敗したときに、要素の一連の有効な値を説明しないエラーメッセージが表示される。
6378940	どの HTTP ヘッダー解析エラーにも、クライアント IP とエラーの説明が記録されない。
6470552	set-variable SAF が定義済みの変数を設定できなかった。
6486480	<p><replacement>>false</replacement> を指定すると、service-nsfcdump のエントリヒット数が 0 になる。</p> <p>server.xml ファイル内で <replacement>>false</replacement> を指定すると、service-nsfcdump 出力のエントリヒット数が 0 と表示されます。ただし、キャッシュヒット数は正しく表示されます。</p>

表5 コアにおける既知の問題 (続き)

バグID	説明
6489220	<p>サーバーが、<code>\$\$</code> 文字定数を含む非補間文字列を挿入文字列として扱う。</p> <p>あるパラメータ値に <code>\$\$ escape</code> が含まれている場合、サーバーは、そのパラメータブロックの <code>PblockModel</code> を構築します。<code>\$\$</code> は定数なので、これは不要です。</p>
6641109	<p>NFS マウントされた docroot ディレクトリを使って設定された Web Server がクラッシュする</p> <p>NFS を使用していて <code>MediumFileSizeLimit>0</code> の場合に NFS ファイルが削除または置換されると、Web Server がクラッシュします。したがって、ドキュメントルートが NFS 上にマウントされている場合は、<code>MediumFileSizeLimit>0</code> を使用しないようにしてください。</p> <p>回避方法</p> <p>NFS クライアントのように、Web Server のドキュメントが NFS マウント上に存在している場合には、<code>nsfc.conf</code> 内で <code>MediumFileSizeLimit</code> を 0 に設定します。</p>

FastCGI

次の表は、FastCGI における既知の問題を一覧したものです。

表6 FastCGI における既知の問題

バグID	説明
6485248	<p>reuse-connection が true に設定されていると、fastcgi スタブがすべてのプロセスを適切に閉じない。</p> <p>FastCGI プラグインとして PHP と連携するように Web Server 7.0 を設定し、<code>reuse-connection=true</code> を設定します。サーバーを停止または再設定するときに、<code>fastcgi()</code> プロセスとその子プロセスが取り残されて適切に終了されません。</p>

インストール

次の表に、Web Server のインストールにおける既知の問題の一覧を示します。

表7 インストールにおける既知の問題

バグID	説明
6414539	<p>管理ノードをアンインストールしても、そのノードが管理サーバーのノードから削除されない。</p> <p>管理ノードをインストールし、それを「ノード」タブで管理サーバーに登録すると、「ノード」タブ内にその管理ノードが表示されます。管理ノードをアンインストールしたときに、その管理ノードのエントリが「ノード」タブ内に残ります。</p>
6287206	<p>ネットワーク上の共有フォルダから設定が起動されると、インストールが実行できない。</p> <p>Windows プラットフォームでは、別のマシン上の共有ネットワークフォルダからインストーラ <code>setup.exe</code> を起動すると、製品をインストールできません。</p>
6311607	<p>Windows で、管理パスワードが8文字以上の場合にインストーラが CLI モードでクラッシュする。</p> <p>管理ユーザーパスワードが8文字以上である場合、管理ポート、Web サーバーポート、または管理ユーザー ID への入力の中に1つでも無効なものがあると、インストーラがクラッシュします。</p> <p>回避方法:</p> <p>コマンド行インタフェース (CLI) を使って Web Server 7.0 を Windows プラットフォーム上にインストールする場合、管理パスワードを8文字未満 (<8) に設定する必要があります。</p>
6408072	<p>Windows の場合、「プログラム」フォルダ内のオブジェクトに対するアイコンが必要である。</p> <p>Windows 上の「Sun Java System Web Server 7.0」フォルダ内のオブジェクトは、デフォルトの Windows プログラムアイコンで作成され、Sun のプログラムであることを示す独自のアイコンを備えていません。</p>
6492144	<p>パスワード入力時に CLI インストーラが Ctrl + C キーの入力を処理しない。</p> <p>インストーラが <code>ctrl+c</code> キーの入力を受け付けられないため、端末が使用不可能になります。</p>
6710925	<p>RH5.1 上で、設定プログラムが CLI モードで起動し、GUI モードで起動できない</p> <p>回避方法</p> <p>この失敗を回避するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CLI ベースのインストーラを使用します。 2. <code>xdpyinfo</code> コマンドへのシンボリックリンクを作成します。次に例を示します。 <pre>[root@server bin]# ln -s /usr/bin/xdpyinfo /usr/X11R6/bin/xdpyinfo</pre>

表7 インストールにおける既知の問題 (続き)

バグID	説明
6717123	<p>「登録オプション」パネルのUIが正しく表示されない場合がある</p> <p>インストーラの「登録オプション」GUIが正しく表示されない場合があります。</p> <p>回避方法:</p> <p>インストーラのウィンドウのサイズを変更すると、この問題が解決されます。</p>

移行およびアップグレード

次の表に、Web Server 7.0の移行およびアップグレード領域における既知の問題の一覧を示します。

表8 移行およびアップグレードにおける既知の問題

バグID	説明
6407877	<p>installed.pkg ファイルが見つからない場合、Web Server 6.0 から 7.0 に移行するときに不正な移行が行われる。</p> <p>Web Server 6.0 から 7.0 に移行するときに installed.pkg ファイルが見つからないと、Web Server は、magnus.conf ファイル内の NSServlet エントリを不正に移行します。</p>
6490124	<p>6.x->7.0: 移行済みのスケジュールされたイベントが依然として server.xml ファイル内の 6.x のパスを指している。</p>
6502529	<p>6.1->7.0: 移行時に、search-collection-dir 用に設定された相対パス設定が処理されない。</p> <p>インスタンス移行時に、検索コレクションのコピー先になるターゲットパスの相対パスを指定しても、config-store に対して検索コレクションディレクトリが作成されます。インスタンスをインスタンス化するときに、検索コレクションが適切に移行されずにインデックスが作成されます。</p>
6502769	<p>6.x->7.0: 移行時に obj.conf ファイル内のすべての「ドキュメントルート」の NameTrans が無視される。</p>
6498806	<p>Windows では、Web Server の管理コンソールは移行の間、適切な警告をユーザーに与えない。</p> <p>管理サーバーは、選択された新しい設定またはサービス名が Windows 上にすでに存在するかどうかを検出しないため、別の設定名を選択するようユーザーに適切に警告したり、別の設定名をデフォルトとして提案したりしません。</p>
6500509	<p>Web Server 7.0 の移行ツールは、ルート証明書がインストールされていると Web Server 6.1 から正常に移行することができない。</p>

サンプルアプリケーション

次の表に、Web Server のサンプルアプリケーションにおける既知の問題の一覧を示します。

表9 サンプルアプリケーションにおける既知の問題

バグID	説明
6472796	<p>sendmail.jsp によって示されている、javamail サンプルアプリケーションの resource.host を指定するために編集するファイルが間違っている。</p> <p>回避方法</p> <p>javamail.resource.host を設定するには、javamail.build.properties を編集します。<i>install_dir/samples/java/webapps/javamail/src/docroot/sendmail.jsp</i> 内で指定された build.xml ではありません。</p>

検索

次の表に、Web Server の検索機能における既知の問題の一覧を示します。

表10 検索における既知の問題

バグID	説明
6701532	<p>検索エンジンが、パスワードで保護された PDF ドキュメントのインデックス作成に失敗する</p> <p>PDF ドキュメントがパスワードで保護され暗号化されている場合、検索エンジンがそのドキュメントのメタデータのインデックス作成に失敗します。その結果、要求された検索が失敗します。</p>

セキュリティー

次の表に、Web Server のセキュリティー領域における既知の問題の一覧を示します。

表11 セキュリティーにおける既知の問題

バグID	説明
6376901	<p>同一ディレクトリ内のリソースに関する基本ベースおよびダイジェストベース ACL のサポートに制限がある。</p> <p>サーバーがダイジェストベースの ACL と基本ベースの ACL をドキュメントツリー内の異なる部分で使用する場合、その両方を同一ディレクトリ内の異なるファイルやリソースで同時に使用しようとしても、失敗します。</p>

表11 セキュリティーにおける既知の問題 (続き)

バグID	説明
6431287	<p>TLS_ECDH_RSA_*には、RSA キーで署名されたサーバー証明書が必要である。</p> <p>書式 TLS_ECDH_RSA_* の暗号化方式群を使用するには、サーバーが ECC キーペアと、RSA キーで署名された証明書を持っている必要があります。ここでは、自己署名付き証明書でこれらの暗号化方式群を使用することが除外されている点に注意してください。この要件はこれらの暗号化方式群にとって特有なものであり、バグではありません。サーバーはこれらの暗号化方式群に関連する間違っただ設定を検出して警告を発するべきですが、現時点ではそのようになっていません。</p>

セッションレプリケーション

次の表に、Web Server 7.0 のセッションレプリケーション機能における既知の問題の一覧を示します。

表12 セッションレプリケーションにおける既知の問題

バグID	説明
6324321	<p>リモートでエラーが発生したときに、詳しいエラーメッセージが表示されない。</p> <p>リモートで例外が発生すると、リモートインスタンスのエラーログ内にエラーメッセージが記録されます。ところが、ローカルインスタンスは現時点では、ユーザーがどのエラーログを参照する必要があるかが明確に示されていない、汎用的なりモト例外を表示します。</p>
6396820	<p>クライアントの Cookie が無効になっていると、セッションレプリケーションが正しくフェイルオーバーされない。</p>
6406176	<p>有効になっている場合、セッションレプリケーションは、デフォルトのセッションマネージャーになるべきである。</p> <p>管理コンソールまたは CLI を使用するか <code>server.xml</code> ファイルを編集してセッションレプリケーションを有効にしても、セッションレプリケーションは実際には有効になっていません。代わりに、<code>sun-web.xml</code> を手動で編集する必要があります。</p>

Web コンテナ

次の表に、Web Server の Web コンテナにおける既知の問題の一覧を示します。

表13 Web コンテナにおける既知の問題

バグID	説明
4858178	<p>Web コンテナが標準エラーに書き込む。</p>

表 13 Web コンテナにおける既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
6349517	<p>1 を超える MaxProcs モードでの Web アプリケーションのセッション統計情報が正しくない。</p> <p>Web Server はマルチプロセスモードで実行されます。プロセスの最大数を設定するには、<code>magnus.conf</code> 内の <code>MaxProcs</code> 設定変数を使用します。<code>MaxProcs</code> の値が 1 より大きい値に設定されていると、Web Server は、<code>mmap</code> ベースのセッションマネージャーを使って異なる JVM 間でセッションを共有できるようにします。複数のプロセスから統計情報を収集する間、Web アプリケーションの MBean は、個々の MBean にセッションを提供します。個々の MBean の Web アプリケーションセッション統計情報を参照しても、実際のセッション数を確認することはできません。</p>
6394715	<p>Web コンテナが、無効化された Web アプリケーションの MBean オブジェクトを削除する。</p> <p><code>server.xml</code> ファイル内の <code><enabled></code> 要素を <code>false</code> に設定することで Web アプリケーションを無効にすると、Web コンテナはその Web アプリケーションの MBean を削除します。したがって、そのアプリケーションは閉じた Web アプリケーションまたは削除済みの Web アプリケーションとして扱われます。無効化されたオブジェクトは削除されるため、統計情報も失われます。</p>
6419070	<p>JNDI リソースの作成が成功したときに、詳細度のもっとも高いログレベルでもエラーログに情報が記録されない。</p>
6422200	<p>com.sun.org.apache.xerces.internal.jaxp.DocumentBuilderImpl.parse が 1 バイトの読み取りを行う。</p> <p><code>server.xml</code> ファイルを読み取るときに、XML のバージョン番号とエンコーディングを含む先頭行は、一度に 1 バイトずつ読み取られます。</p>
6440064	<p>サーブレットコンテナが、仮想サーバーごとにスレッドを 1 つずつ作成する。</p>
6501184	<p>REQ_EXIT によって javax.servlet.ServletException が発生する。</p>

ローカリゼーション

次の表に、Web Server のローカライズされたバージョンにおける既知の問題の一覧を示します。

表 14 ローカリゼーションにおける既知の問題

バグ ID	説明
6543814	<p>複数バイト文字列には検索フィルタ「*」が正常に機能しない。</p>

表 14 ローカリゼーションにおける既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
6714777	日本語ロケールで、Sun オンラインアカウント作成のエラーメッセージに*(アスタリスク)文字が含まれる
6715350	日本語ロケールで、OLH に無効な文字が含まれる

Java Enterprise System

次の表に、Java Enterprise System (Java ES) における既知の問題の一覧を示します。

表 15 Java ES における既知の問題

バグID	説明
6432106	<p>Web Server のアップグレード後に Sun Java System Portal Server の検索機能が例外をスローする。</p> <p>Web Server を Java ES 4 から Java ES 5 にアップグレードすると、Portal Server の検索機能が例外をスローします。</p> <p>回避方法</p> <p>注 - 既存の <code>libdb-3.3.so</code> および <code>libdb_java-3.3.so</code> ライブラリファイルを、Web Server の非公開ディレクトリ以外の適切な場所に移動します。Portal Server ライブラリを適切な場所に移動したら、そのパスを以下の手順で <code><libdb-3.3.so path></code>; <code><libdb_java-3.3.so path></code> に指定する必要があります。</p> <p>Solaris プラットフォームで、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <code>libdb-3.3.so</code> および <code>libdb_java-3.3.so</code> ファイルを、Web Server 6.1 の <code>lib</code> ディレクトリから適切な場所にコピーします。 <p>注 - HP-UX の場合、ファイルは <code>libdb-3.3.sl</code> と <code>libdb_java-3.3.sl</code> です。Windows の場合、ファイルは <code>libdb-3.3.dll</code> と <code>libdb_java-3.3.dll</code> です。</p> <p>注意 - Web Server 7.0 の非公開ディレクトリ (<code>lib</code> ディレクトリなど) にライブラリファイルをコピーしないでください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. <code>/portal_libraries</code> という名前でディレクトリを作成します (<code>mkdir</code>)。ライブラリファイル <code>libdb-3.3.so</code> および <code>libdb_java-3.3.so</code> を <code>/portal_libraries</code> にコピーします。 3. <code>wadm</code> コマンドを使用して、ライブラリファイルの場所を Web Server に通知します。 4. 次の管理 CLI コマンドを入力して、現在のネイティブなライブラリパス設定を取得します。 <pre>get-jvm-prop -user=admin --config=hostname native-library-path-prefix</pre> 出力を保存します。 5. 次の管理 CLI コマンドを入力して、コピーした <code>libdb-3.3.so</code> および <code>libdb_java-3.3.so</code> のパスを、既存のネイティブなライブラリパスに追加します。 <pre>set-jvm-prop --config= hostname native-library-path-prefix=<existing native library-path>:</portal-libraries-path></pre> ここで、<code>portal-libraries-path</code> は、手順 1 で <code>libdb-3.3.so</code> および <code>libdb_java-3.3.so</code> ファイルをコピーした場所です。 <pre>get-jvm-prop</pre> コマンドを実行しても結果または出力が得られない場合は、コマンドプロンプトで <code>native-library-path-prefix</code> を次のように設定します。 <pre>native-library-path-prefix=</portal-libraries-path></pre> 6. 注 - Windows プラットフォームの場合は、次のように「;」を <code>native-library-path-prefix</code> パラメータの区切り文字として使用します。 <pre>native-library-path-prefix=<existing native library path>;<portal-libraries-path></pre> Windows 以外のプラットフォームの場合は、次のように「:」を <code>native-library-path-prefix</code> パラメータの区切り文字として使用します。 <pre>native-library-path-prefix=<existing native library path>:<portal-libraries-path></pre> 7. 次のコマンドを入力して、変更後の構成を配備します。 <pre>deploy-config [--user=admin-user] config-name</pre>

表 15 Java ES における既知の問題 (続き)

バグ ID	説明
6504178	移行ログが「 root is not a valid user 」という間違っメッセージを Java ES 5 上で報告する。 UNIX プラットフォームで Java ES 4 から Java ES 5 にアップグレードしているときに、移行ログファイルが WARNING: "root is not a valid user" と報告します。そのホストでは「root」ユーザーは有効なので、このメッセージは間違っています。
6453037	Web Server の起動時に、多数の警告メッセージや情報メッセージが、ログファイルに送られずに標準出力に表示される。

問題の報告とフィードバックの方法

Sun Java System Web Server で問題が発生した場合は、次のいずれかの方法でご購入先のカスタマサポートに連絡してください。

- 次のオンライン Sun ソフトウェアサポートサービスをご利用ください。
<http://www.sun.com/service/serviceplans/software/>
- 保守契約を結んでいるお客様は、専用ダイヤルをご利用ください。

問題解決へのお手伝いが円滑に行えるよう、サポートに連絡する際には次の情報をご用意ください。

- 問題が発生した状況および操作への影響などの、問題の具体的説明
- マシン機種、OS バージョン、および製品のバージョン (問題に関係するパッチおよびその他のソフトウェアを含む)
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

このマニュアルに関するコメント

弊社では、マニュアルの改善に努めており、お客様からのコメントおよびご忠告をお受けしております。Sun へのご意見は、次の場所にある「コメントの送信」リンクを使用してお送りください。<http://docs.sun.com/>

ご意見をお送りいただく場合は、マニュアルの Part No. やタイトル名などの識別情報もあわせてご記入ください。

Sun Java System Web Server 製品に関するフィードバックをお送りいただく場合は、webserver@sun.com 宛てに電子メールをお送りください。

その他の情報

Sun Java Systems の有用な情報は、次の場所から入手できます。

- Sun Java System Web Server のマニュアル
<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1664.1?l=ja>
- Sun ソフトウェア製品およびサービス
<http://jp.sun.com/products/software/>
- Sun 開発者向け情報
<http://developers.sun.com/>
- Sun 開発者サポートサービス
<http://developers.sun.com/prodtech/support/>
- ソフトウェアサポートサービス
<http://jp.sun.com/service/support/software/>
- Sun サポートおよびトレーニングサービス
サポート:<http://jp.sun.com/support/>
トレーニング:<http://suned.sun.co.jp/JPN/>
- Sun コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunjavasystem/sjsservicessuite.html>
- Sun Gathering Debug Data
<http://www.sun.com/service/gdd/index.xml>

Sun 製品資料の検索

Sun 製品資料の検索には docs.sun.com Web サイトからだけでなくお好みの検索エンジンも使用することができ、その場合は検索フィールドに次の構文を入力します。

```
<search-term> site:docs.sun.com
```

たとえば、「Web Server」を検索するには、次のように入力します。

```
Web Server site:docs.sun.com
```

検索に java.sun.com、www.sun.com や developers.sun.com などほかの Sun Web サイトも含めるには、「docs.sun.com」の代わりに「sun.com」を検索フィールドに入力します。